

資料 4

尻別川水系流域及び河川の概要

尻別川流域委員会（第1回 平成21年 1月 7日）

流域及び河川の概要

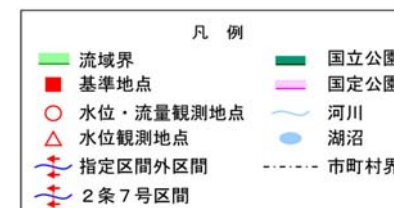
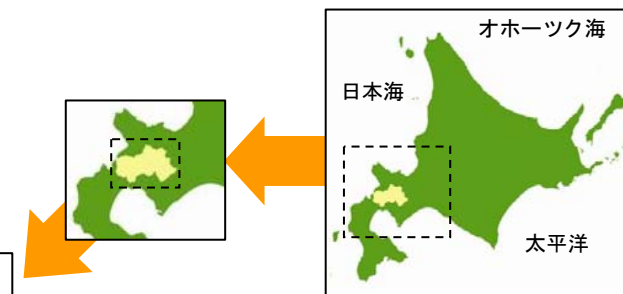
- ◆ 尻別川は全国第42位（全道第6位）の流域面積を有する。
- ◆ 河川延長は全国第33位（全道第6位）の河川である。
- ◆ 尻別川流域は北海道後志地方における社会・経済・文化の基盤をなしている。

河川名	流域面積 (Km ²)	幹川流路延長 (Km)
尻別川	1,640	126 (24.2)

※ () 書きは、指定区間外区間延長



屍別川流域図



屍別川全体

- 流域内市町村数
1市6町2村
- 流域内人口
約3.7万人

流域の地形

- ◆ 尻別川の源はフレ岳の西方に発し、羊蹄山の北側を半周したのちニセコ連山の麓を流れ、下流部では平地を蛇行しながら日本海に注ぐ。
- ◆ 中央に羊蹄山がそびえ、その周辺に標高1,000～1,500mの山地を形成している。
- ◆ 上流域から中流域は主にゆるい台地状の地形や段丘地形を有している。
下流域では地形が開け、幅の広い谷底平野や段丘地形が広がる。

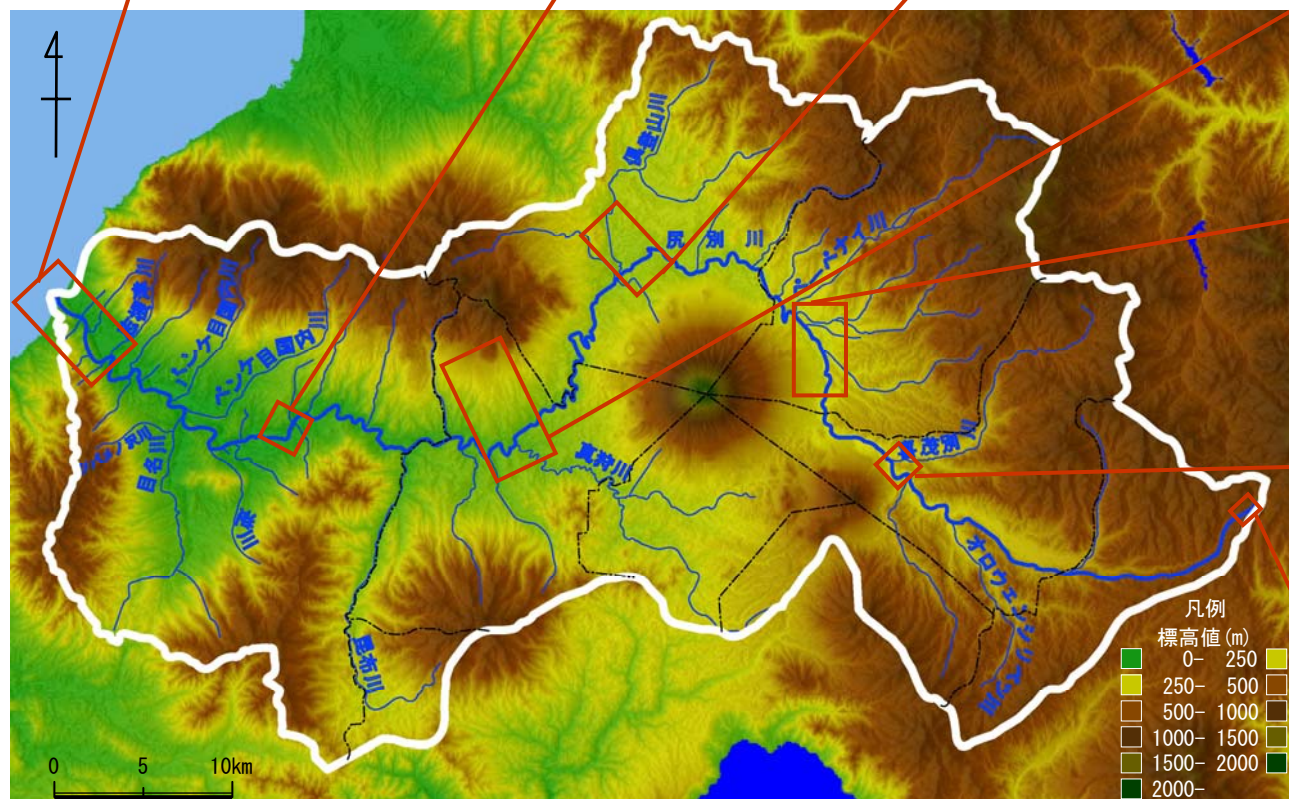


流域地形図

※出典：「土地分類図」国土庁土地局

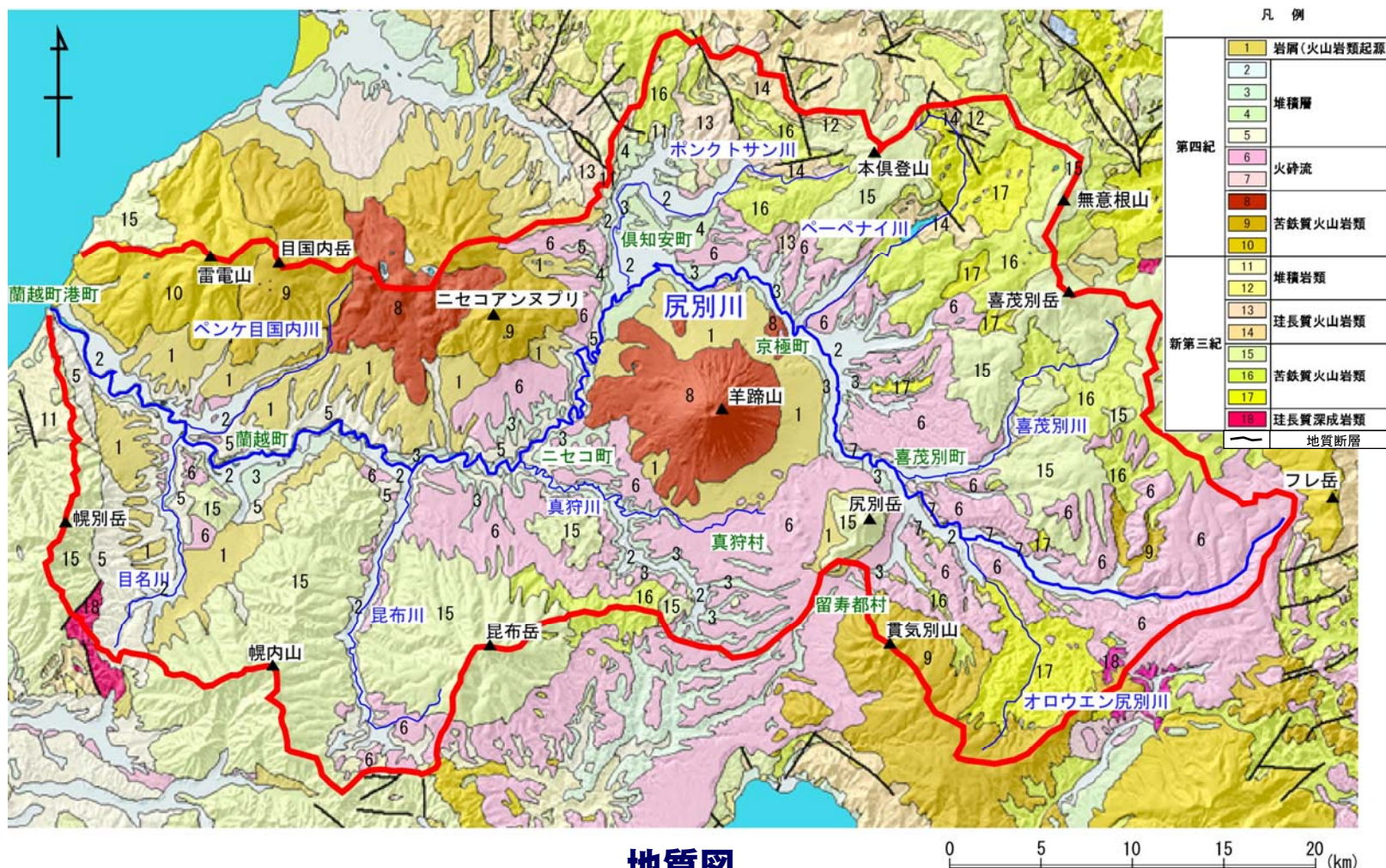
流域の地形的特徴

◆ 倶知安町からニセコ町にかけては河谷地形で、河川の蛇行が著しい。



流域の地質

- ◆ 尻別川流域の地質は、新第三紀の火成岩を基盤岩とし、その上に第四紀の火山岩や火砕流堆積物が分布するほか、現河川に沿って、礫、砂、粘性土、火山灰等の未固結堆積層が分布する。



流域の気象状況

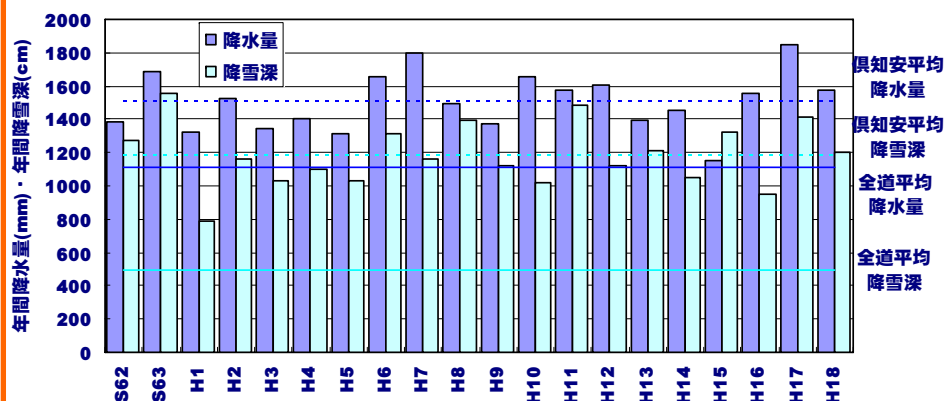
尻別川流域の平均年間降水量

平均年間降水量は約1,500mm

倶知安における平均年間降水量は全道平均の約1.3倍。

(全道平均年間降水量は約1,100mm)

平均年間降水量・降雪深（倶知安）



出典：気象庁アメダス

統計期間：1987年～2006年

※全道平均値は各支庁所在地の1971年～2000年
気象庁算出値を平均したもの

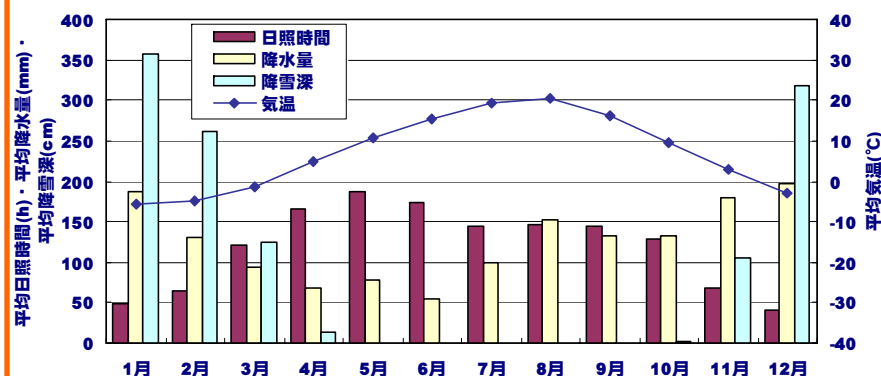
月別降水量・日照時間・平均気温・降雪深

降雪量は約1,150cm

倶知安における降雪量は全道平均の2倍以上。

(全道平均降雪量は約500cm)

月別降水量・日照時間・平均気温・降雪深（倶知安）

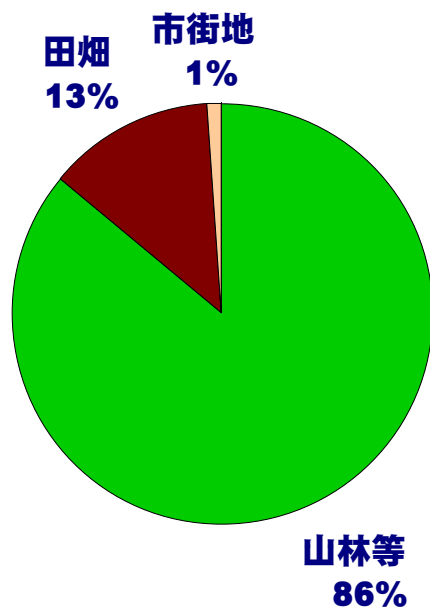


出典：気象庁アメダス

統計期間：1987年～2006年

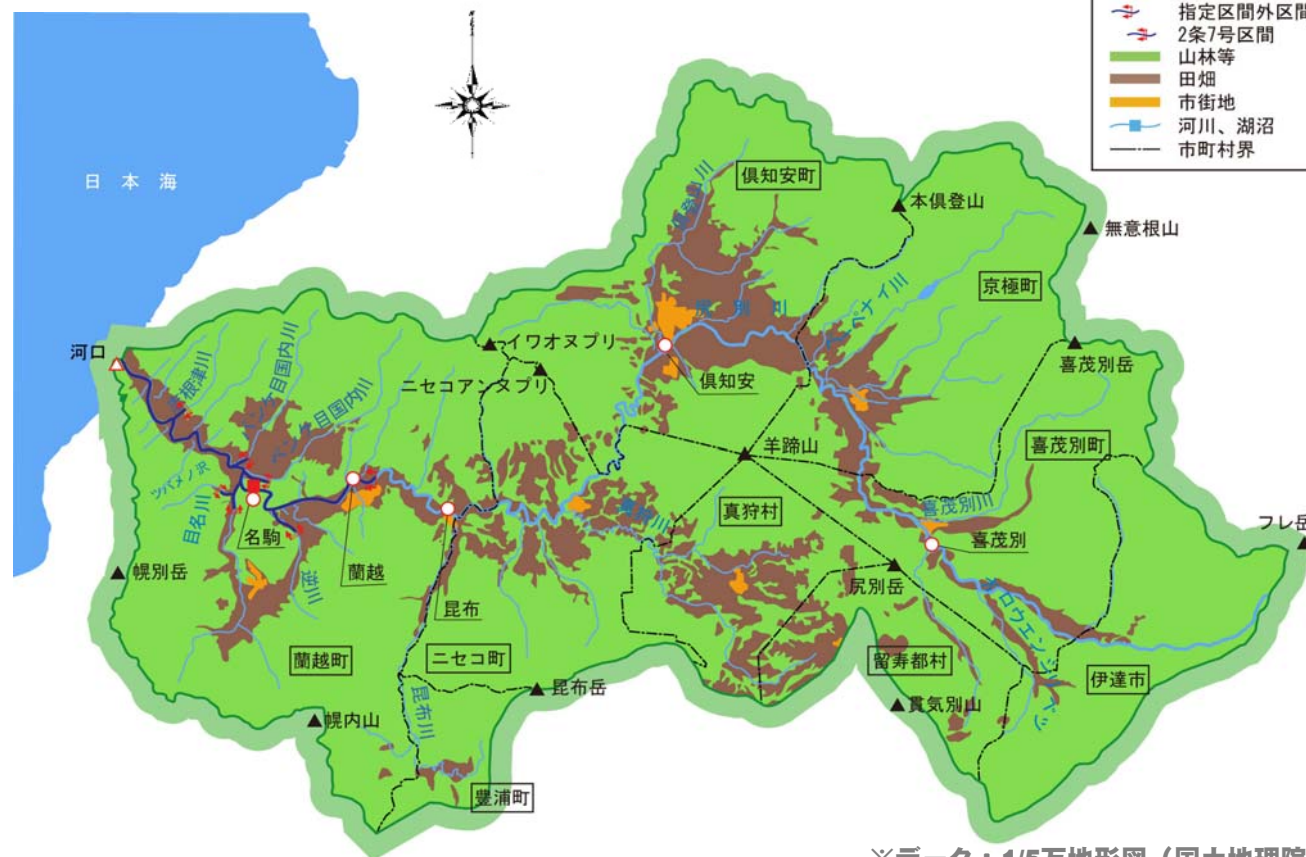
流域の土地利用（現況）

◆ 明治初頭に開拓が始まって以来、治水整備や農業開発等の進捗に伴い、現在では北海道有数の農業地帯として発展してきた。



地目別土地利用の割合
(流域内市町村計)

※出典：平成17年北海道市町村勢要覧
(蘭越町・ニセコ町・真狩村・留寿都村・
喜茂別町・京極町・倶知安町の合計の比率)

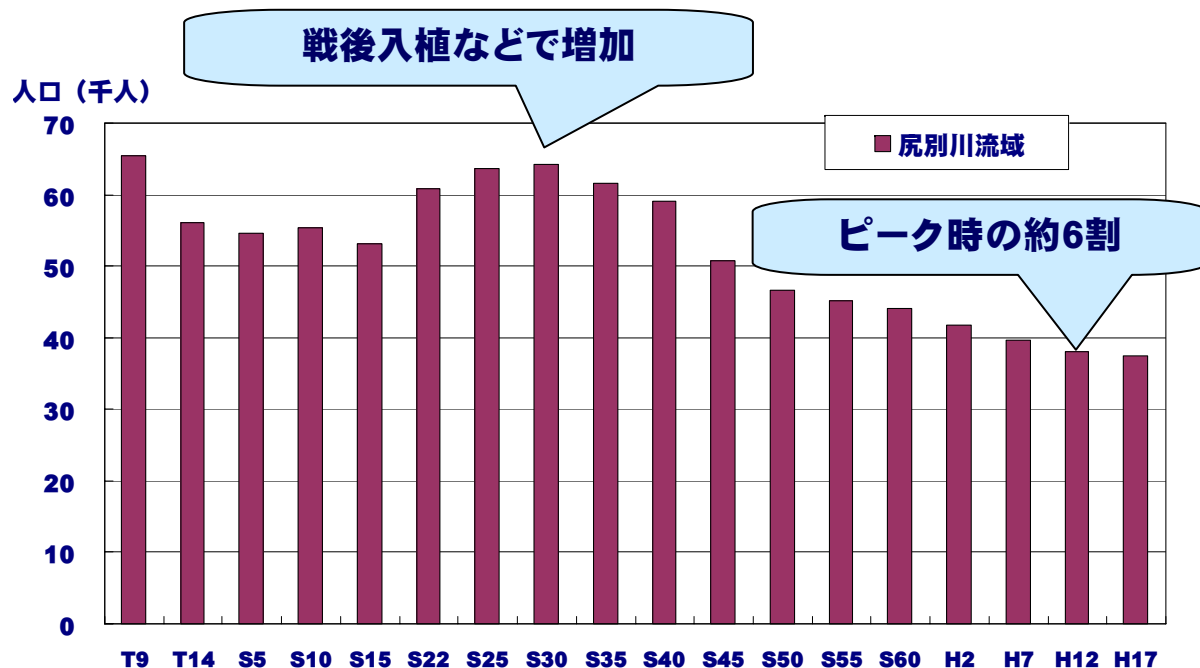


※データ：1/5万地形図（国土地理院）

尻別川流域の発展

- ◆ 尻別川流域は、蘭越町、倶知安町をはじめとする1市6町2村からなり、流域内人口は約3.7万人である。

尻別川流域内人口の推移

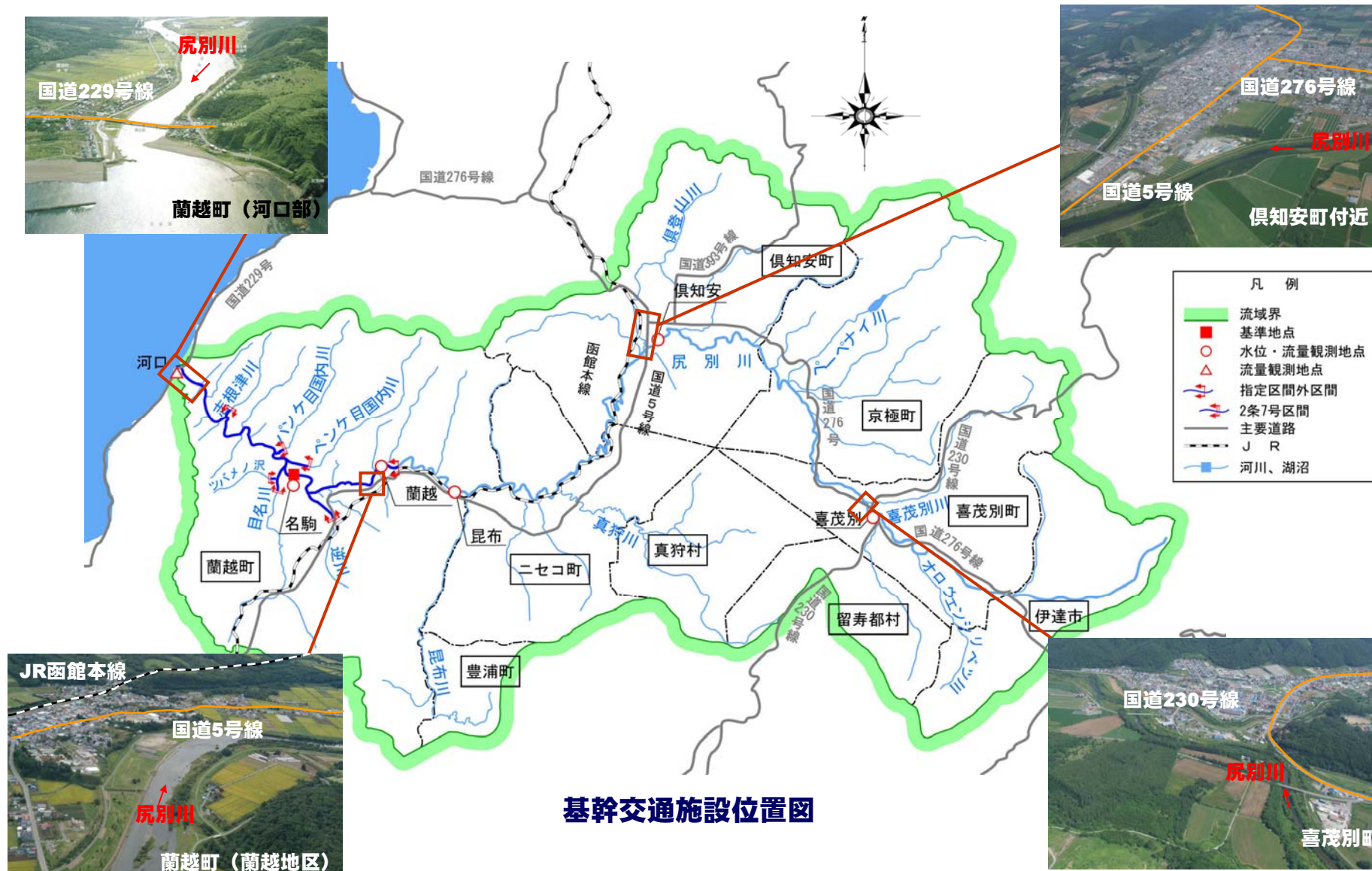


※出典：大正9年～平成17年国勢調査

(尻別川流域内人口は、蘭越町・ニセコ町・真狩村・留寿都村・喜茂別町・京極町・倶知安町の合計)

尻別川流域の交通網

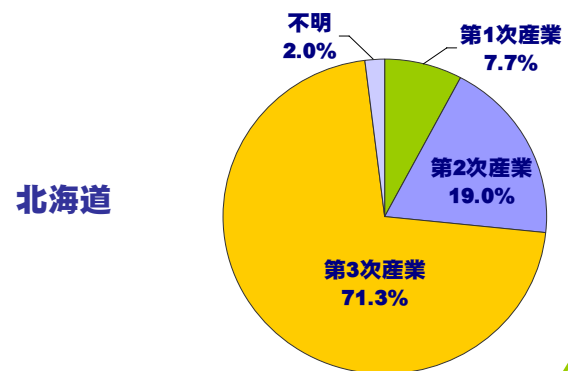
- ◆ 流域内には、JR函館本線、国道5号、229号、230号、276号、393号等があり、札幌、小樽と道南地域を結ぶ物流輸送や旅客輸送に大きな役割を果たしている。



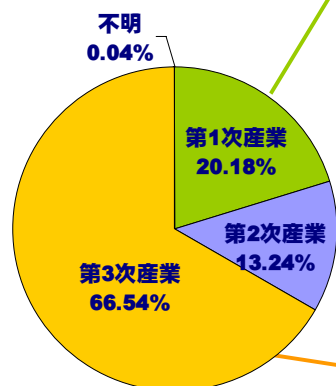
尻別川流域の産業①

◆ 尻別川流域の第1次産業の人口割合は、北海道全体の人口割合の約3倍。

産業別就業人口の割合



尻別川流域



尻別川流域の産業別就業人口順位

順位	1位	2位	3位
第1次産業	農業	林業	漁業
第2次産業	建設業	製造業	鉱業
第3次産業	卸売・小売業	サービス業（他に分類されないもの）	飲食店、宿泊業

※データ：平成17年国勢調査の統計値



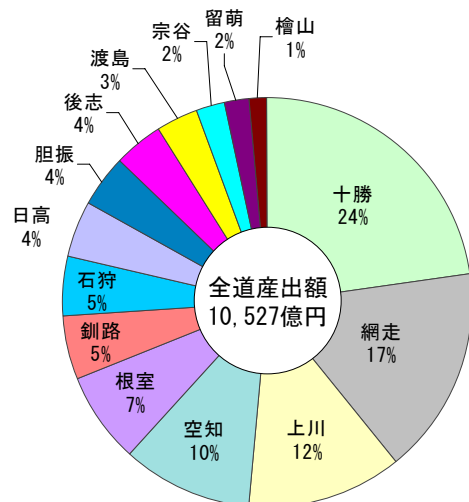
写真出典：ルスツリゾートHPより



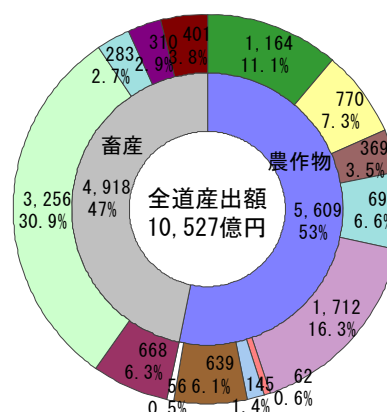
写真出典：倶知安町HPより

尻別川流域の産業②

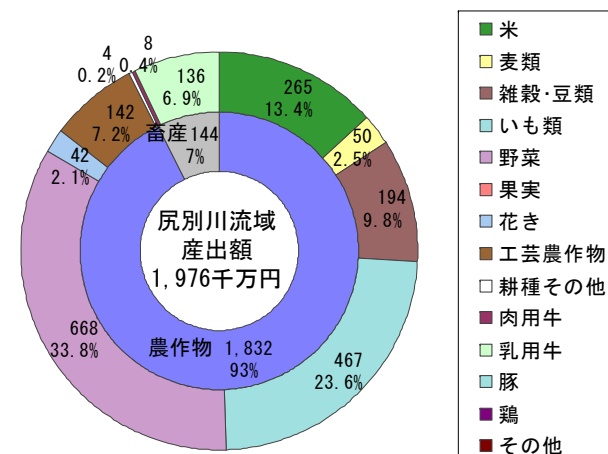
- ◆ 尻別川流域は、農場として開拓された時代から畑作を中心とした農業経営を展開してきた。尻別川流域の農業産出額の内訳は全道と比べ農作物の構成比が高く、野菜類、いも類などの構成比が高いのが特徴となっている。



全道の農業産出額（支庁別：H18年）

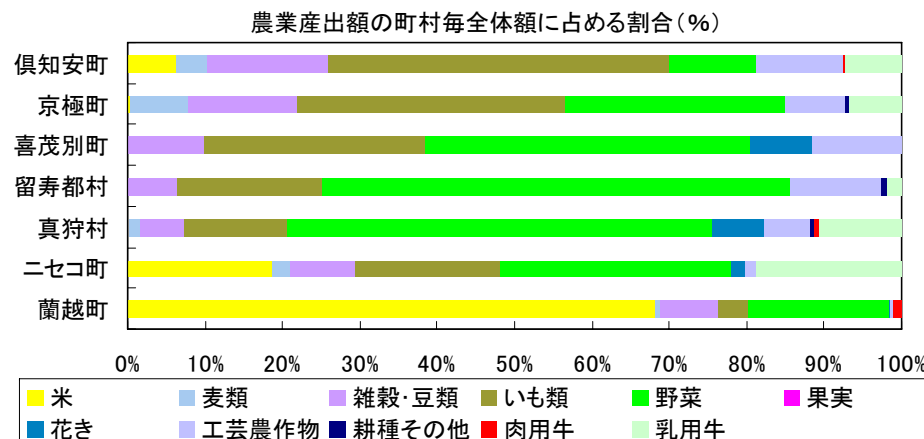


農業産出額の作物別構成比（H18年）



※資料：農林水産統計（H18年）

- ◆ 流域内町村の産出額の内訳は、倶知安町ではいも類、喜茂別町・留寿都村・真狩村では野菜、蘭越町では米の割合が高い。

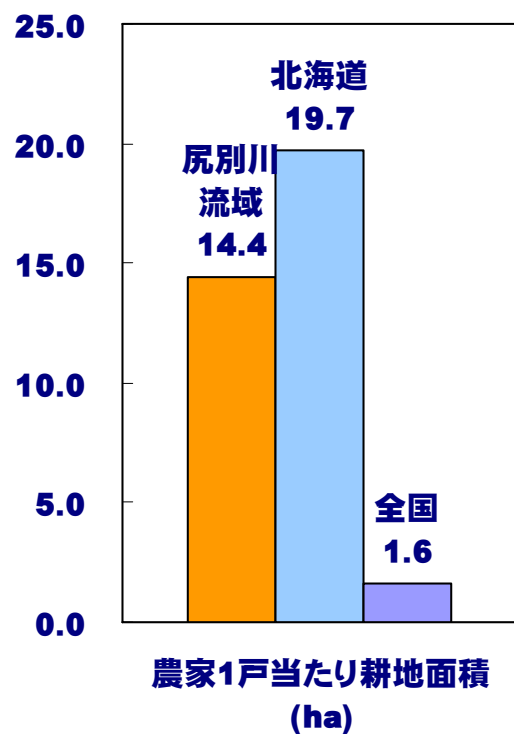


※資料：農林水産統計（H18年）

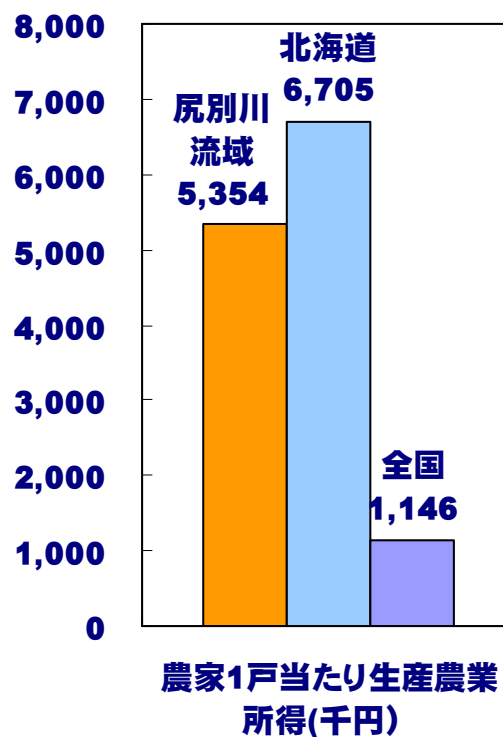
尻別川流域の産業③

◆ 尻別川流域の農家1戸当たり耕地面積は14.4haで北海道平均の約7割、農家1戸当たり生産農業所得は北海道平均の約8割であるが、耕地面積当たりの生産農業所得は北海道平均と同程度となっている。

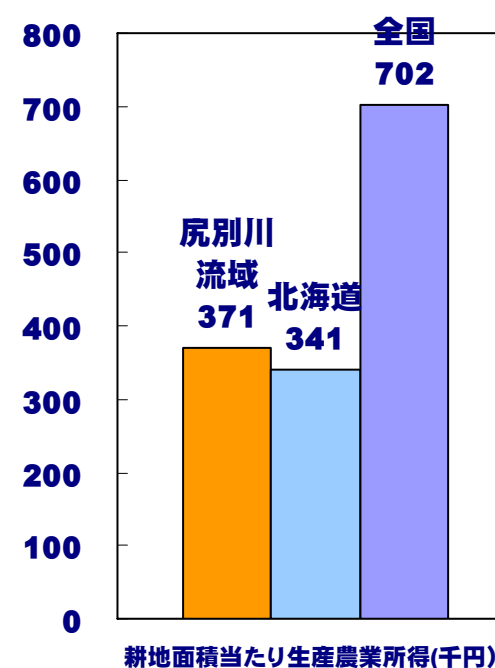
1戸当たり耕地面積



1戸当たり生産農業所得



耕地面積当たり生産農業所得



尻別川流域の産業④

- ◆ 尻別川では、主にアユ・カワヤツメ漁が行われている。
- ◆ カワヤツメは昭和60年代前半をピークに減少している。現在では生ヤツメの出荷と栄養ドリンクなどの製品が作られている。
- ◆ アユは天然産卵親魚の保護、人工ふ化放流が行われてきたが、昭和50年代後半からは琵琶湖産や宮城産稚アユの移殖放流をし、現在では遊魚を主体としている。支川の名目川では、サケ・マス捕獲場があり人工ふ化・放流が行われている。

漁業の名称	寿都漁協	尻別川漁協
アユ漁業	—	○
モクズガニ漁業	—	○
カワヤツメ漁業	○	○



カワヤツメ漁



カワヤツメ

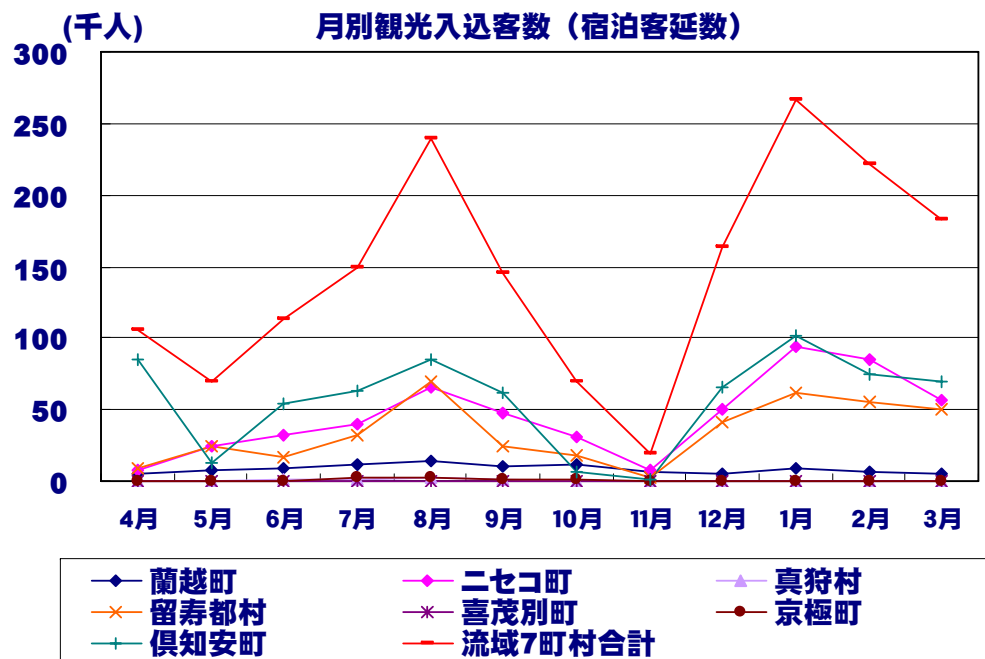


全国アユ釣り大会 (H16)

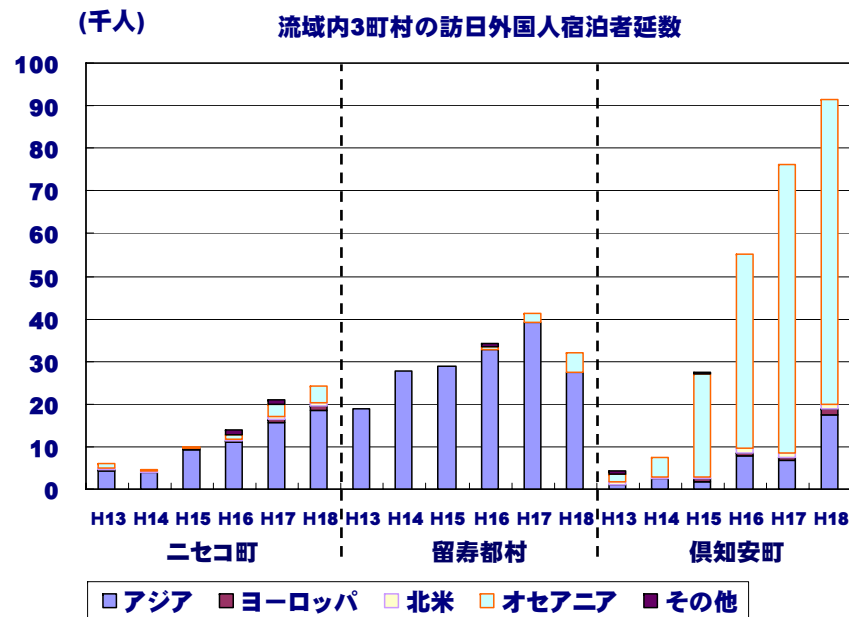


尻別川流域の産業⑤

◆ 雄大な自然景観、アウトドアスポーツ、温泉などを求め、夏季・冬季に多くの観光客が訪れる。近年はアジア・オセアニアからの観光客が増えている。



観光宿泊客延数（平成18年度）



訪日外国人宿泊延数

※出典：北海道経済部観光局「北海道観光入込客数調査報告書」平成13～18年度版



◆ 尻別川流域は、羊蹄山及び流域西側に面して支笏洞爺国立公園、北西部にニセコ積丹小樽海岸国立公園の一部が位置し、雄大な自然に囲まれている。



- [illegible]



※写真出典：北海道遺産HPより

尻別川流域と文化

◆ 古くから尻別川流域にかかわる文学作品・文学者が多く存在する。

作家	作品名	舞台
有島武郎	「カインの末裔」 「生れ出ずる悩み」	ニセコ
畔柳二美	「姉妹（きょうだい）」	ニセコ
林芙美子	「七つの燈」 「田園日記」	倶知安
小林多喜二	「東倶知安行」	倶知安

◆ 「後方羊蹄山の高山植物帯」は大正10年に国の文化財（天然記念物）として指定されている。町村指定の文化財として、「曽我環状列石」（ニセコ町：史跡）、「大仏寺本堂の天井画」（倶知安町：有形文化財）などがある。



羊蹄山 山頂



曽我環状列石



大仏寺本堂の天井画

写真出典：倶知安町HPより

尻別川と探険家

- ◆安政4（1857）年、箱館奉行所の命を受けた松浦武四郎は、6度にわたって蝦夷地内陸探検をこころみ、『丁巳東西蝦夷山川地理取調日誌』『後志羊蹄日誌』等を残した。
- ◆明治新政府下、開拓使の開拓判官となった武四郎は、蝦夷地を北海道と命名した。

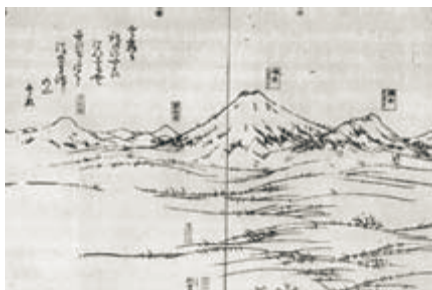


後方羊蹄日誌

（北海道立文学館所蔵）



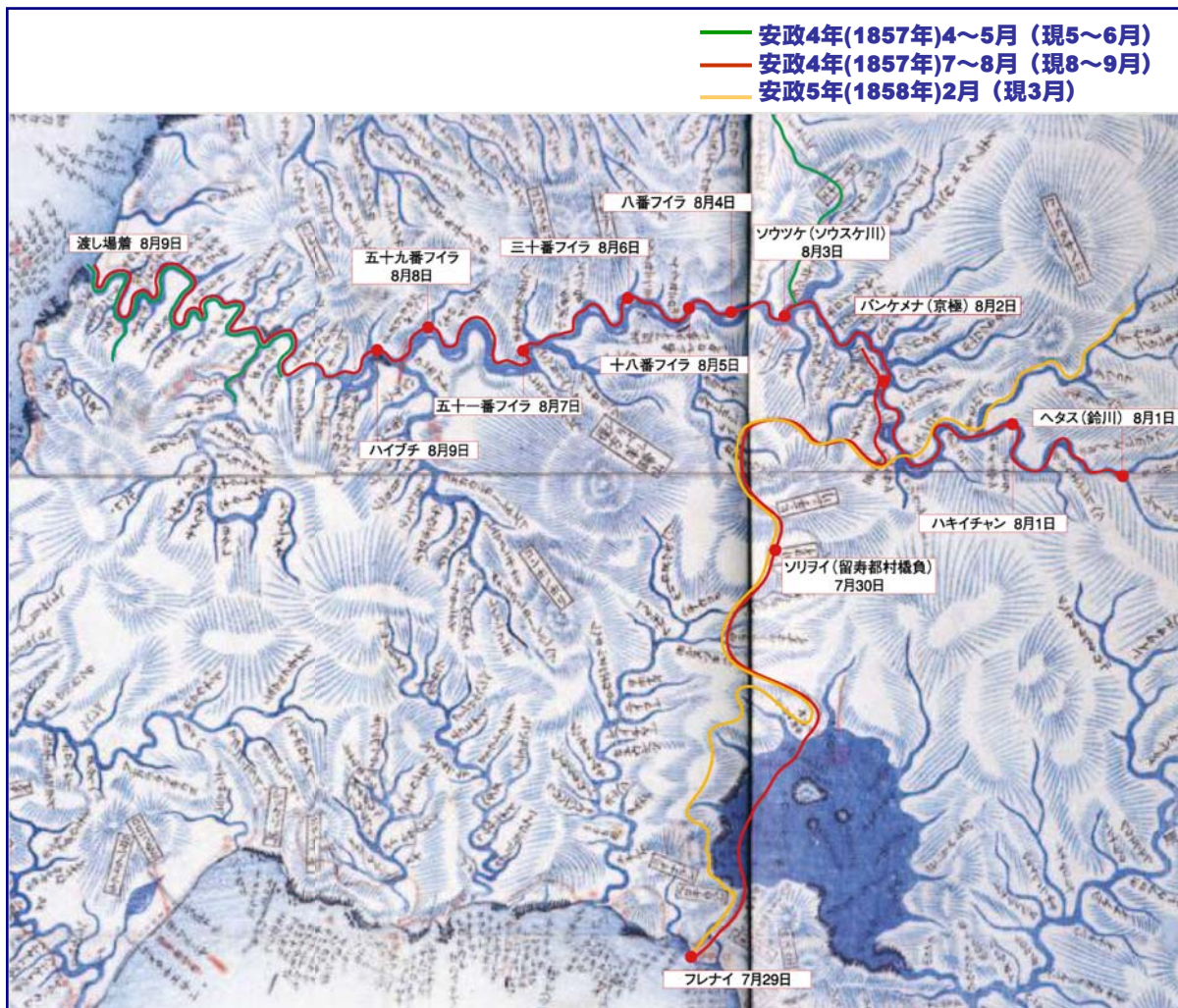
松浦武四郎



雌岳が記された後方羊蹄と雄岳の尻別岳（後方羊蹄日誌）



ファイラ（現ニセコ町）より望む羊蹄山（後方羊蹄日誌）



東西蝦夷山川地理取調図（北海道立文学館所蔵）

尻別川の開拓の歴史

- ◆ 尻別川流域の最初の入植は蘭越町で、米沢藩や津軽出身者の入植者数人規模であった。組織的な団体入植者は、明治15年御成地区へ石川県からの入植が最初であり、明治中期には、ニセコ、京極、真狩、大滝など各地への入植が始まった。
- ◆ 入植とともに木材の需要が高まり、明治37年に北海道鉄道（現JR函館本線）の開通により、伐採された用材が尻別川や喜茂別川より流送され、倶知安で陸揚げされていた。
- ◆ 大正2年には京極農場で水田の試作が行われ、大正7年に南尻別村（現蘭越町）の大谷地において前田村（現共和町）から移住した10戸ほどが水田を作りはじめた。現在、下流部の稲作は後志管内の収穫量の約3割を占めている。
- ◆ 馬鈴薯の栽培は、明治より真狩村をはじめニセコ町、倶知安町などで行われている。また、グリーンアスパラ、てんさいなどが作付けされ、尻別川流域は北海道内有数の農業地帯となっている。



後志岳の開墾 明治期（北大附属図書館所蔵）



尻別川での木材輸送

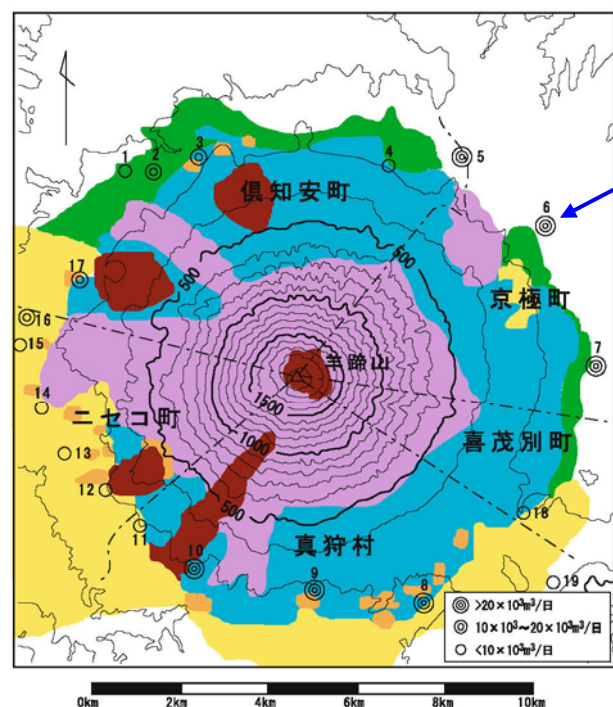


尻別川と真狩村鉄道駅 現ニセコ駅
明治38年（北大附属図書館所蔵）

羊蹄山周辺の湧水群

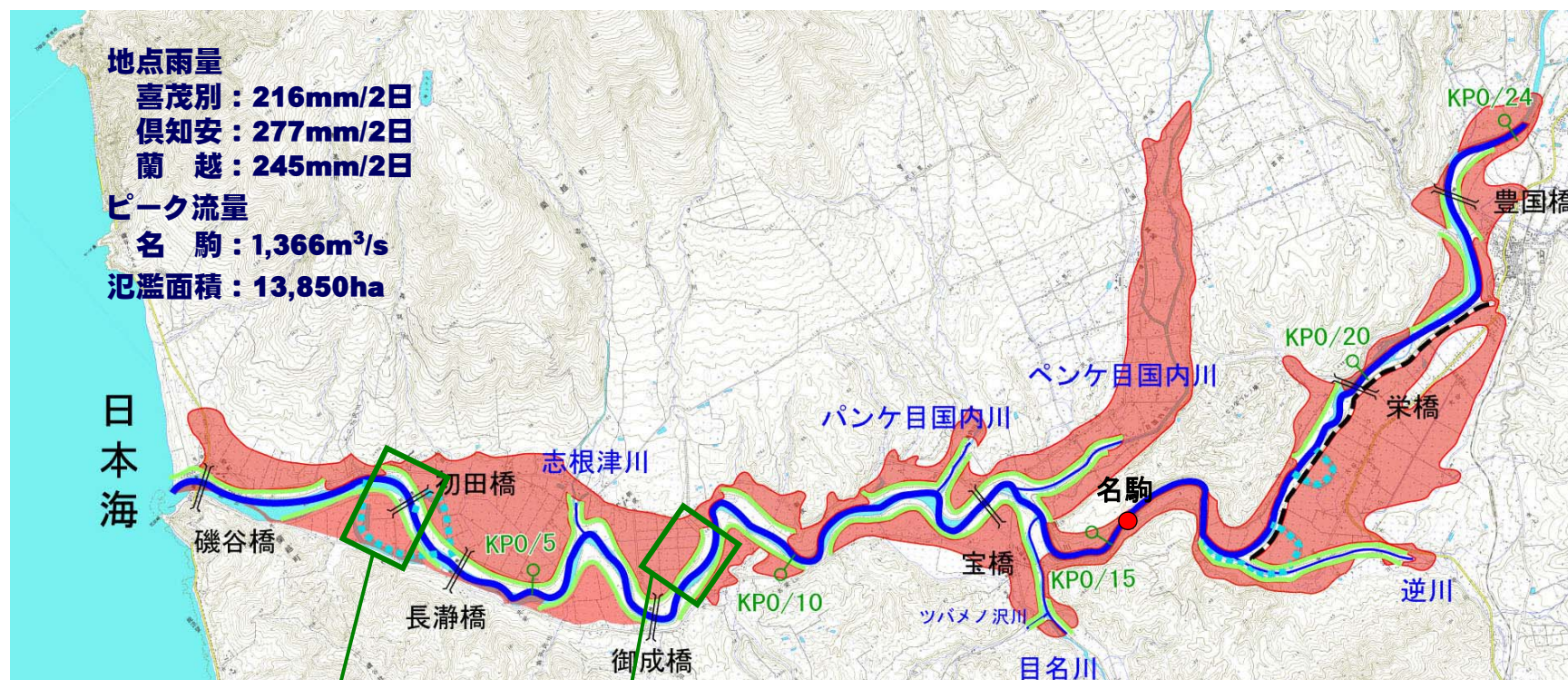
- ◆京極町「ふきだし公園」内の湧水は、環境庁（当時）が昭和60年3月に発表した「名水百選」に選ばれている。羊蹄山麓の数多くの湧泉は上水道水源として利用されている。
- ◆羊蹄山は円錐型火山であり、この基盤は安山岩質溶岩を最下層とし、その上に100m以上の火山噴出物が乗っている。この火山噴出物は極めて透水性が高く、降水の大部分は地下へ浸透し湧出する。

■ 羊蹄山麓地質図および湧水個所図



ふきだし公園

昭和37年8月洪水の氾濫状況

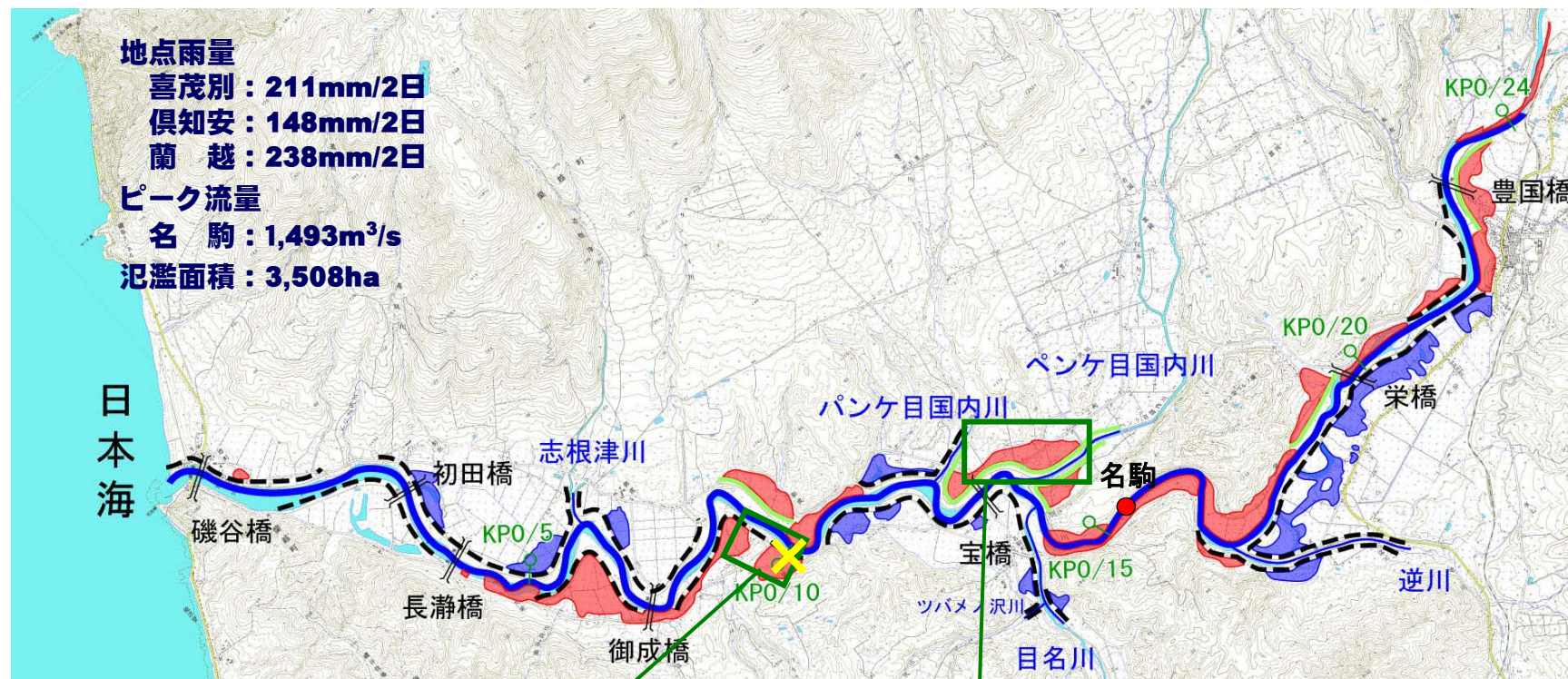


実績氾濫図



- [堤防整備状況]
- 無堤・計画有り
 - 暫定
 - 完成
 - ✕ 破堤箇所
- [実績氾濫域]
- 外水氾濫
 - 内水氾濫

昭和50年8月洪水の氾濫状況



実績氾濫図

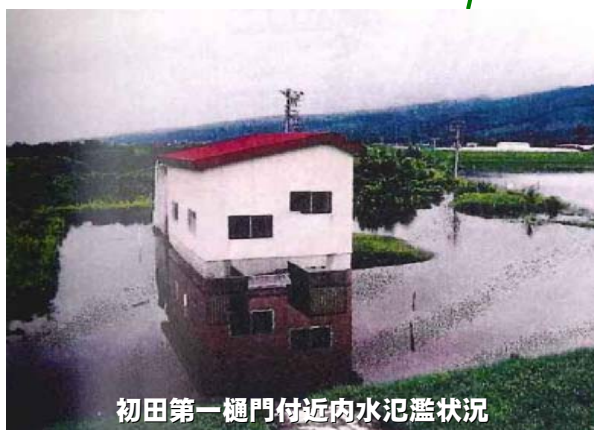


- [堤防整備状況]
- 無堤・計画有り
 - 暫定
 - 完成
 - × 破堤箇所
- [実績氾濫域]
- 外水氾濫
 - 内水氾濫

平成11年8月洪水の氾濫状況



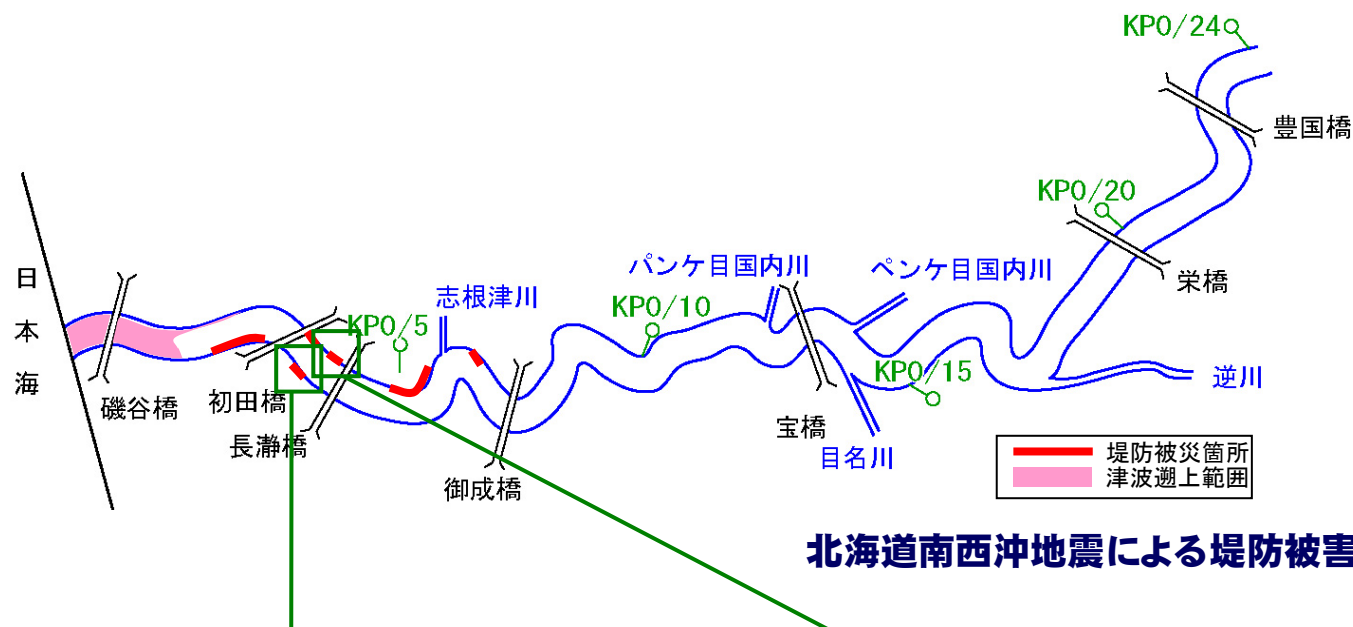
実績氾濫図



- [堤防整備状況]
- 無堤・計画有り
 - 暫定
 - 完成
 - ✕ 破堤箇所
- [実績氾濫域]
- 外水氾濫
 - 内水氾濫

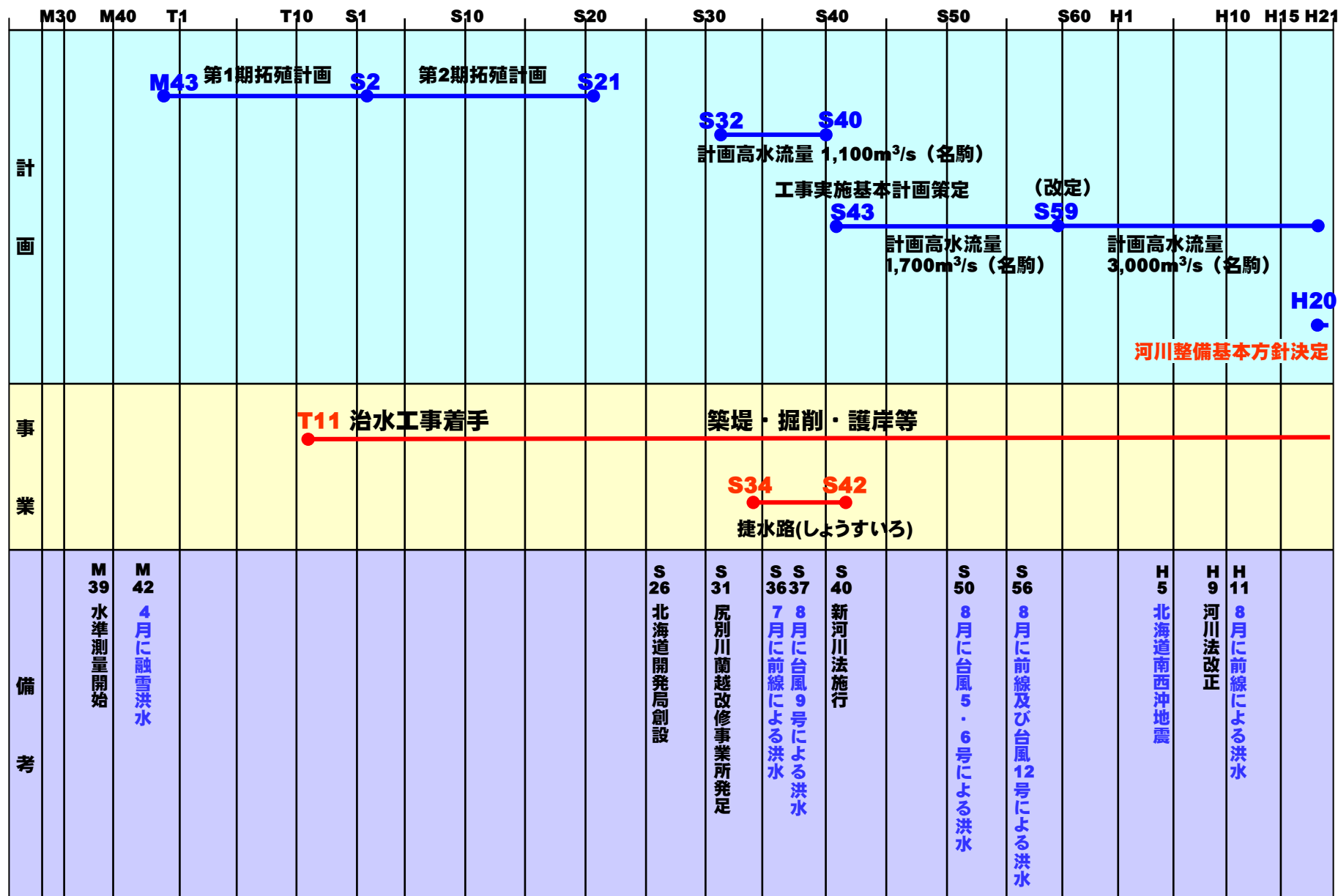
平成5年7月北海道南西沖地震の被害状況

- ◆ 尻別川では、堤防・護岸・樋門等に甚大な被害を受けた。また、津波により磯谷橋下流部で浸水被害が発生している。

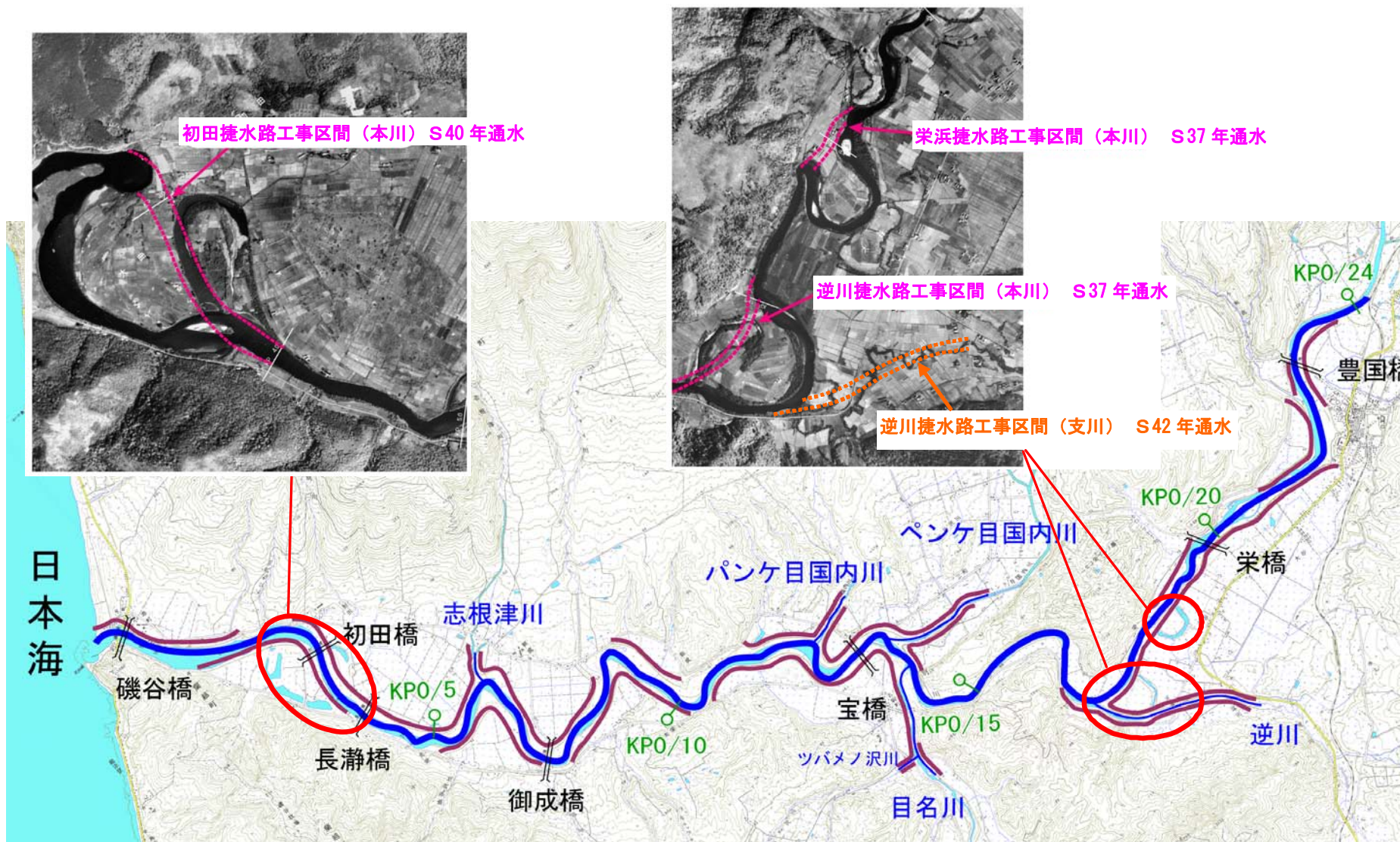


北海道南西沖地震による被災状況

尻別川の治水の沿革



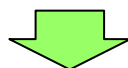
- ◆ 洪水時の水位低下と洪水継続時間を短縮するため、蛇行の著しい本川3箇所・支川1箇所で、捷水路工事を昭和34年から昭和42年にかけて行った。



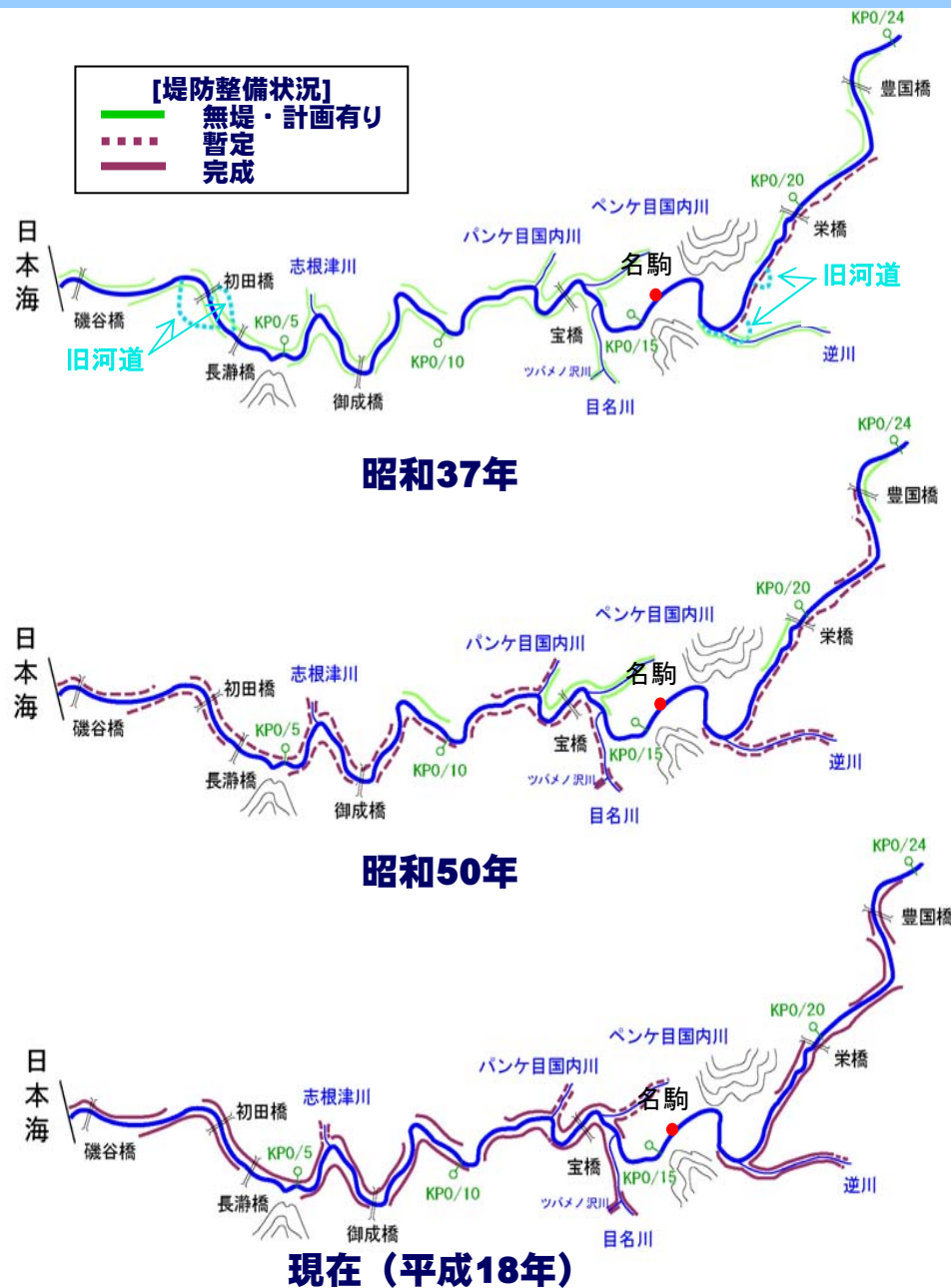
- ◆ 昭和31年から蘭越築堤工事に着手した。
- ◆ 現在は支川の一部を除き完成している。



旧蘭越築堤区間 洪水状況（昭和50年8月洪水）



旧蘭越築堤区間 現在（平成18年）



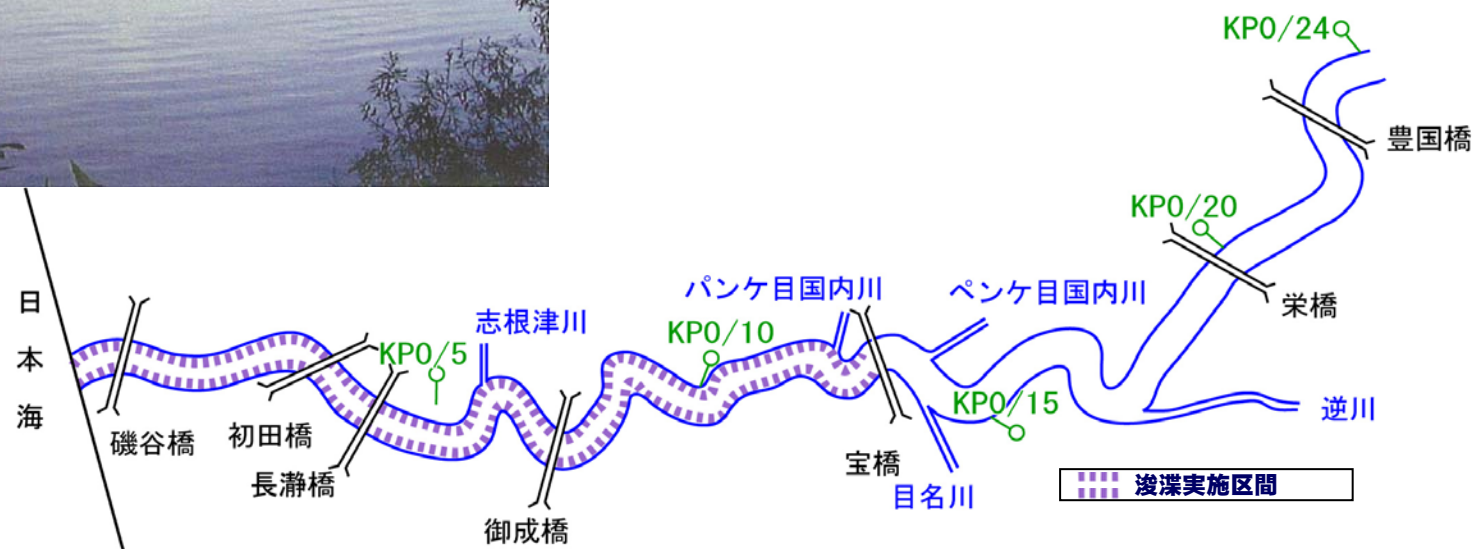
- ◆ 昭和53年に、河口～宝橋付近までの区間の河道断面を確保するための浚渫工事に着手した。



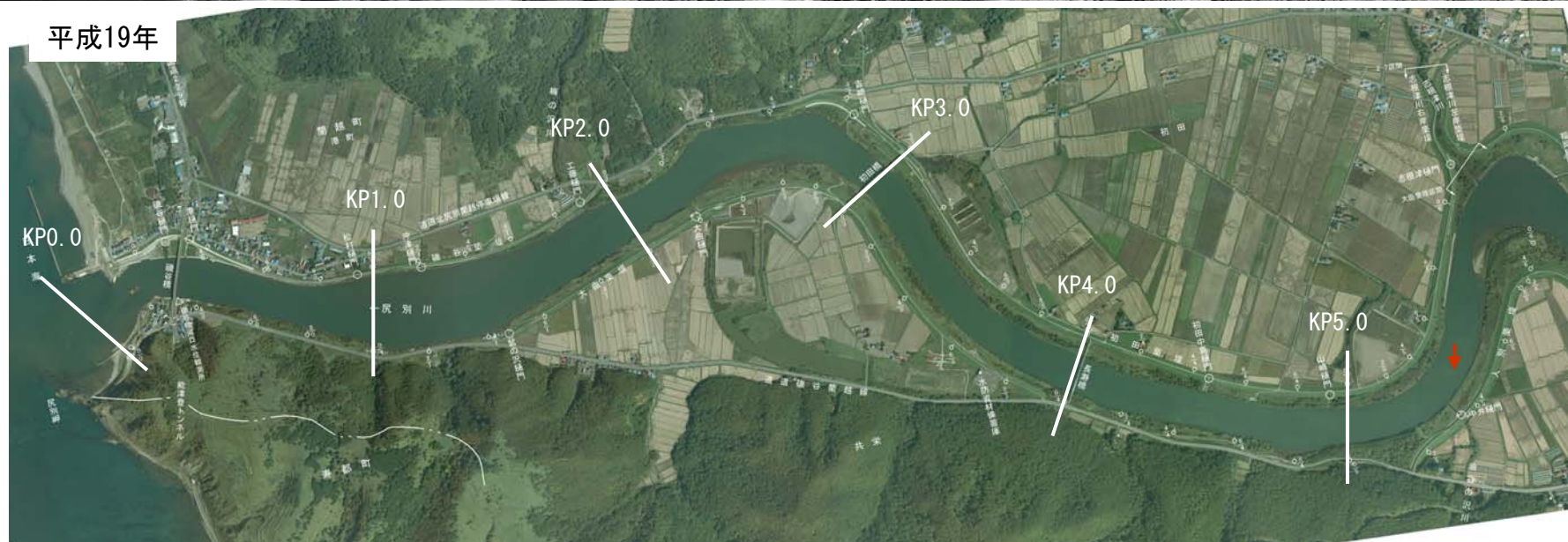
大曲地区浚渫工事
(平成13～15年)



排泥状況

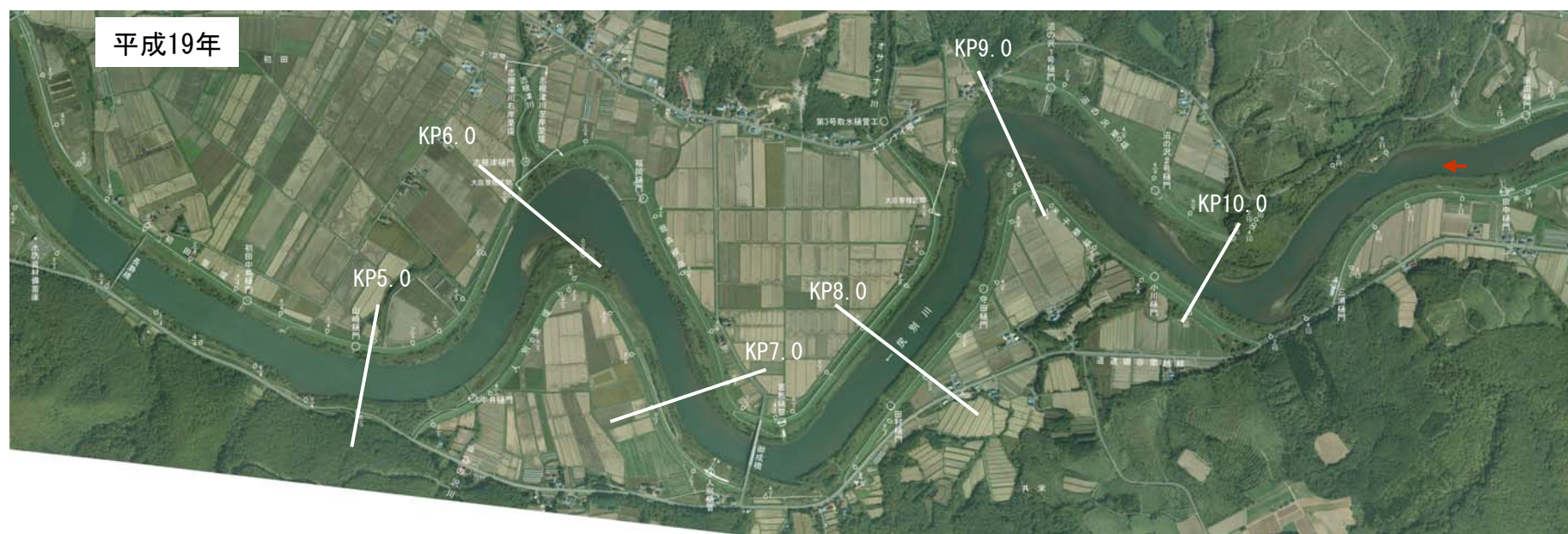
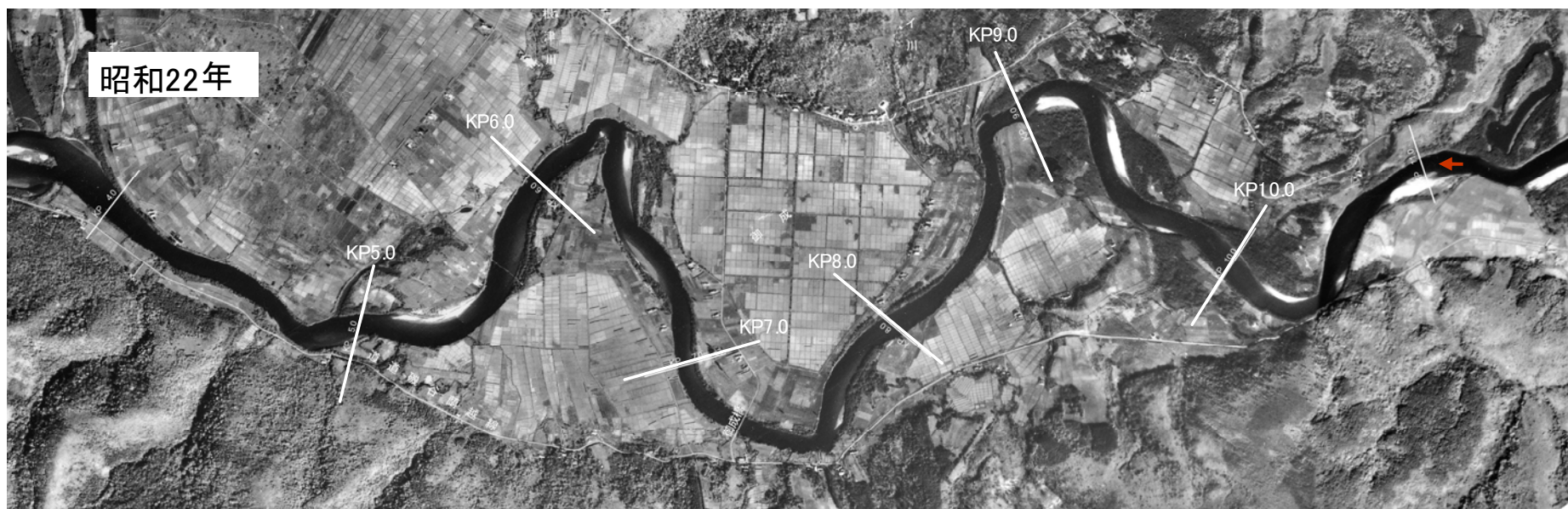


河道の変遷①



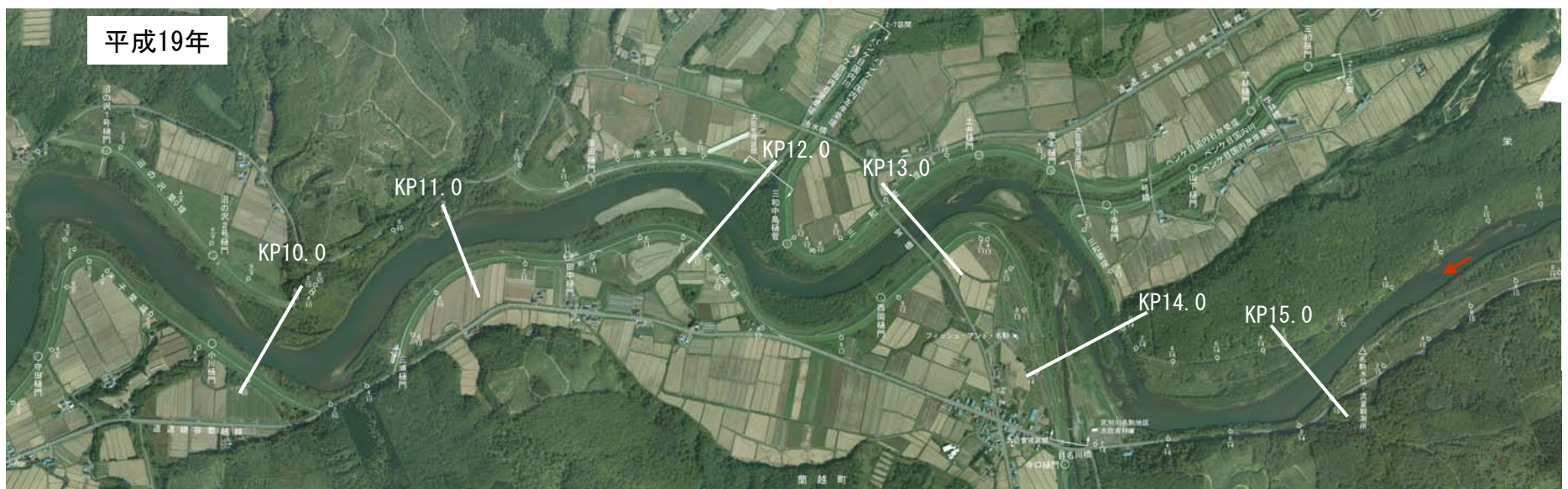
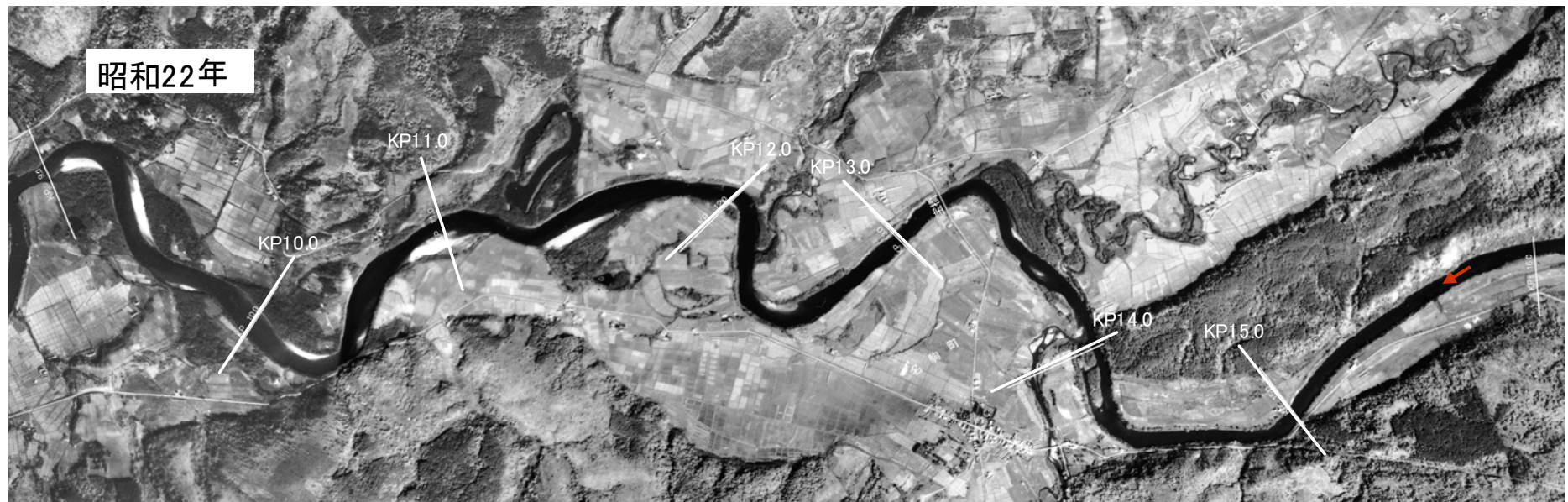
KP0.0~KP5.0

河道の変遷②



KP5.0~KP10.0

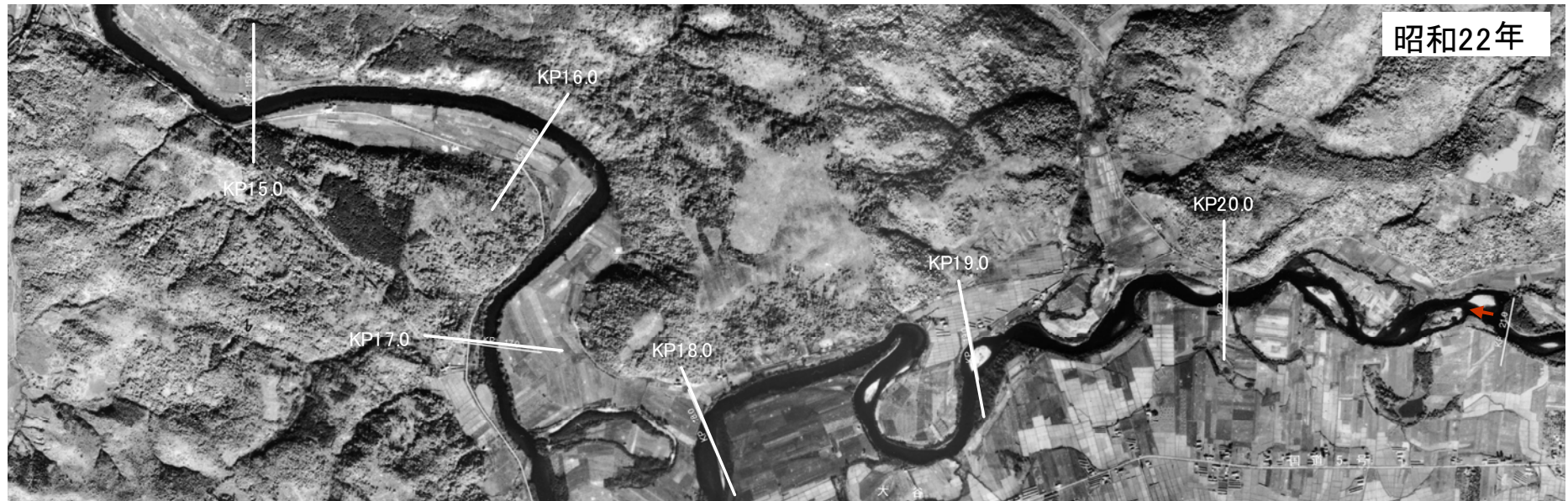
河道の変遷③



KP10.0~KP15.0

河道の変遷④

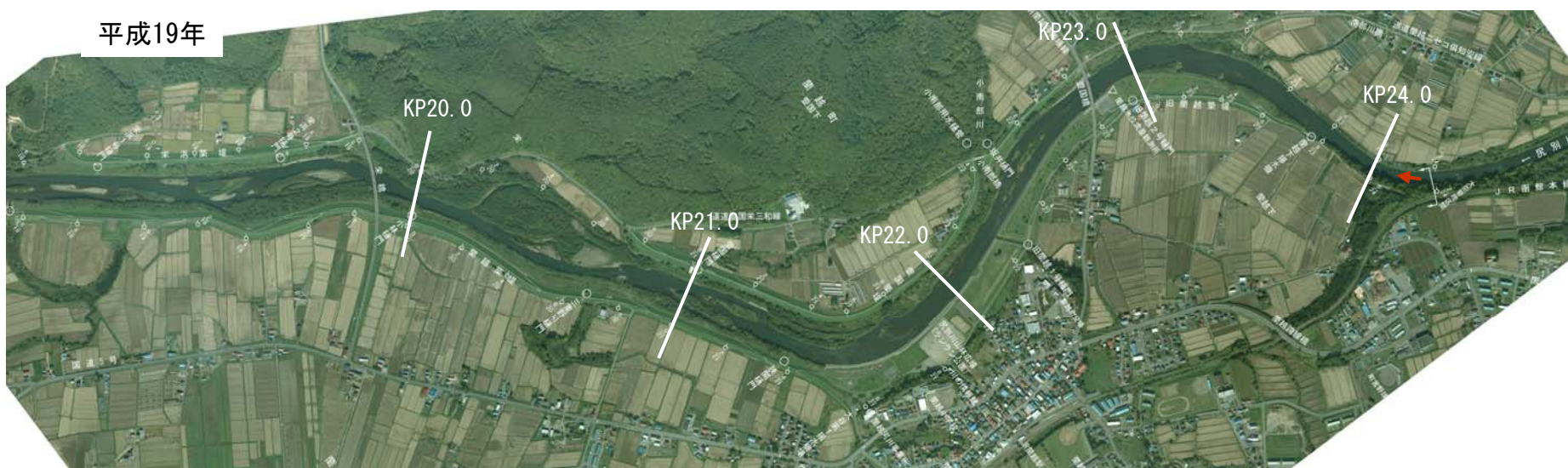
昭和22年



平成19年

**KP15.0~KP20.0**

河道の変遷⑤



KP20.0~KP24.0

平常時の河川整備・維持管理

- ◆ 災害を未然に防止するためには、平常時の整備・管理が不可欠である。
- ◆ 河川の状態を的確に把握し対応することで、計画的に整備を進め、災害の防止に万全を期することが可能となる。

平常時の河川管理（巡視・施設点検）



河川巡視



観測所点検



護岸空洞化点検

管理行為（不法投棄処理等）



不法投棄処理

平常時の河川管理設備の維持管理



水位観測所の除草



堤防の除草



樋門の補修



堤防天端の補修

水害を想定した訓練（蘭越町主催）



訓練の状況



水防（月ノ輪）訓練



シート張工法

計画的な整備



河口部導流堤整備

危機管理体制の整備①

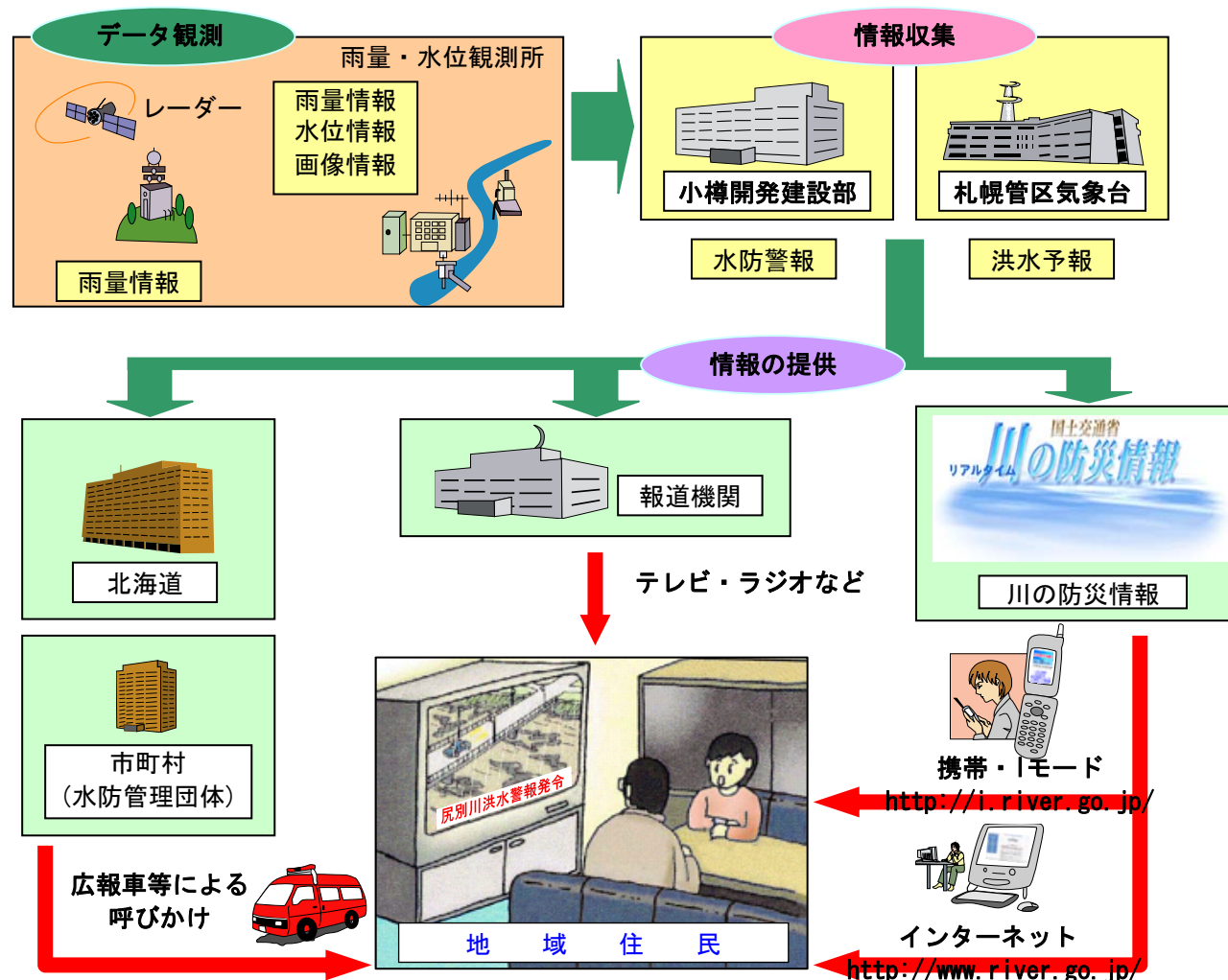
- ◆ 洪水予報及び水防警報の提供、ハザードマップの公表・普及、水防訓練等による洪水被害軽減のための危機管理体制の整備に努める。



水防連絡協議会



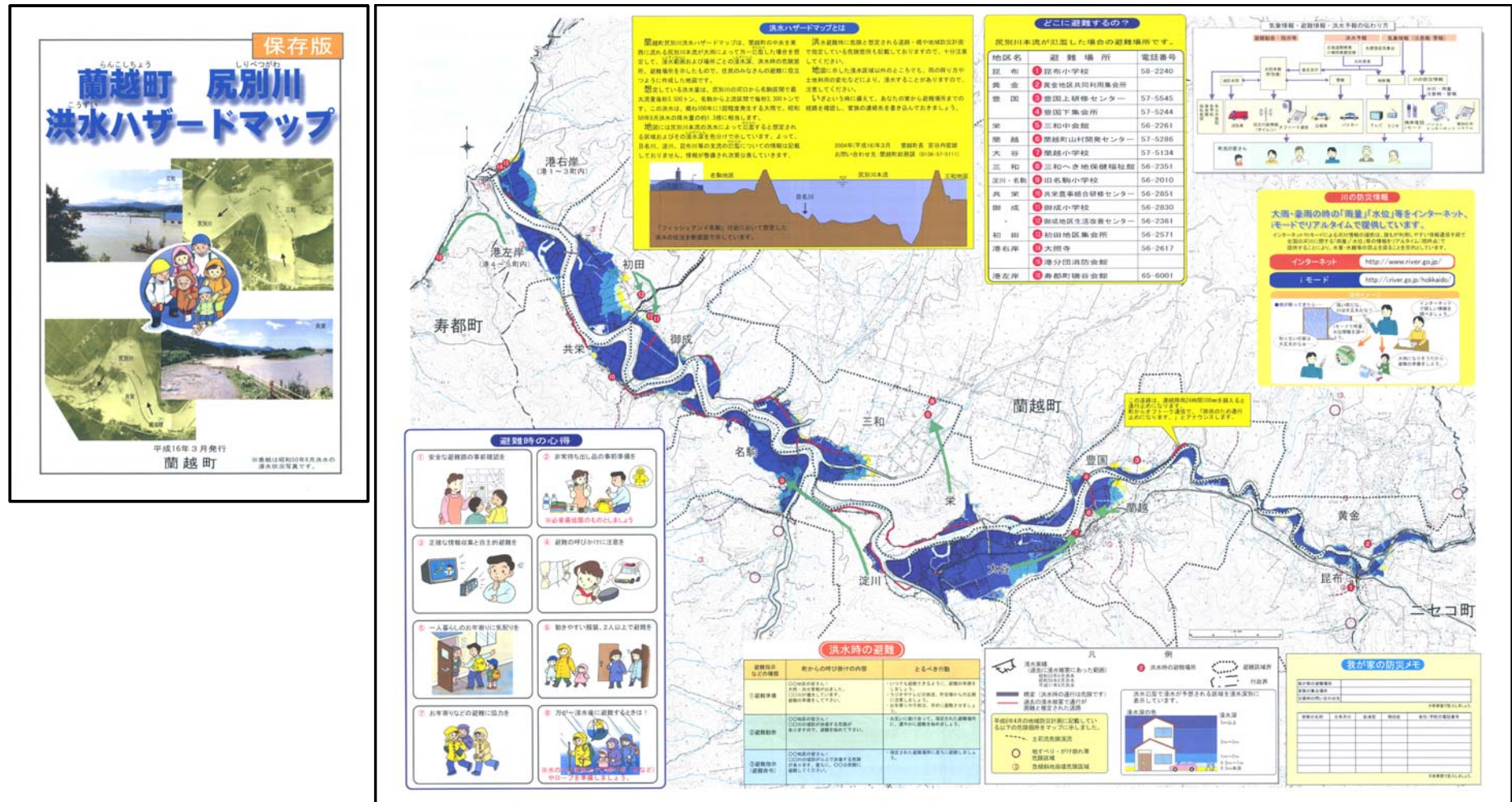
水防工法訓練



洪水予報の伝達

危機管理体制の整備②

- ◆ 洪水時に適切に対応できるように、各自治体の洪水ハザードマップの作成、公表に対し、引き続き支援・協力を行う。



洪水ハザードマップの例（蘭越町）

水防拠点

- ◆ 災害時に緊急復旧するために、水防資材・水難救助資材の保管・備蓄を行っている。
- ◆ 蘭越水防拠点では、地域へ「雨量」「水位」等の災害情報を提供している。また、年間行事の企画や講座、講習会を開催し、地域の方々の交流や環境学習の場を提供している。



大曲資材備蓄基地



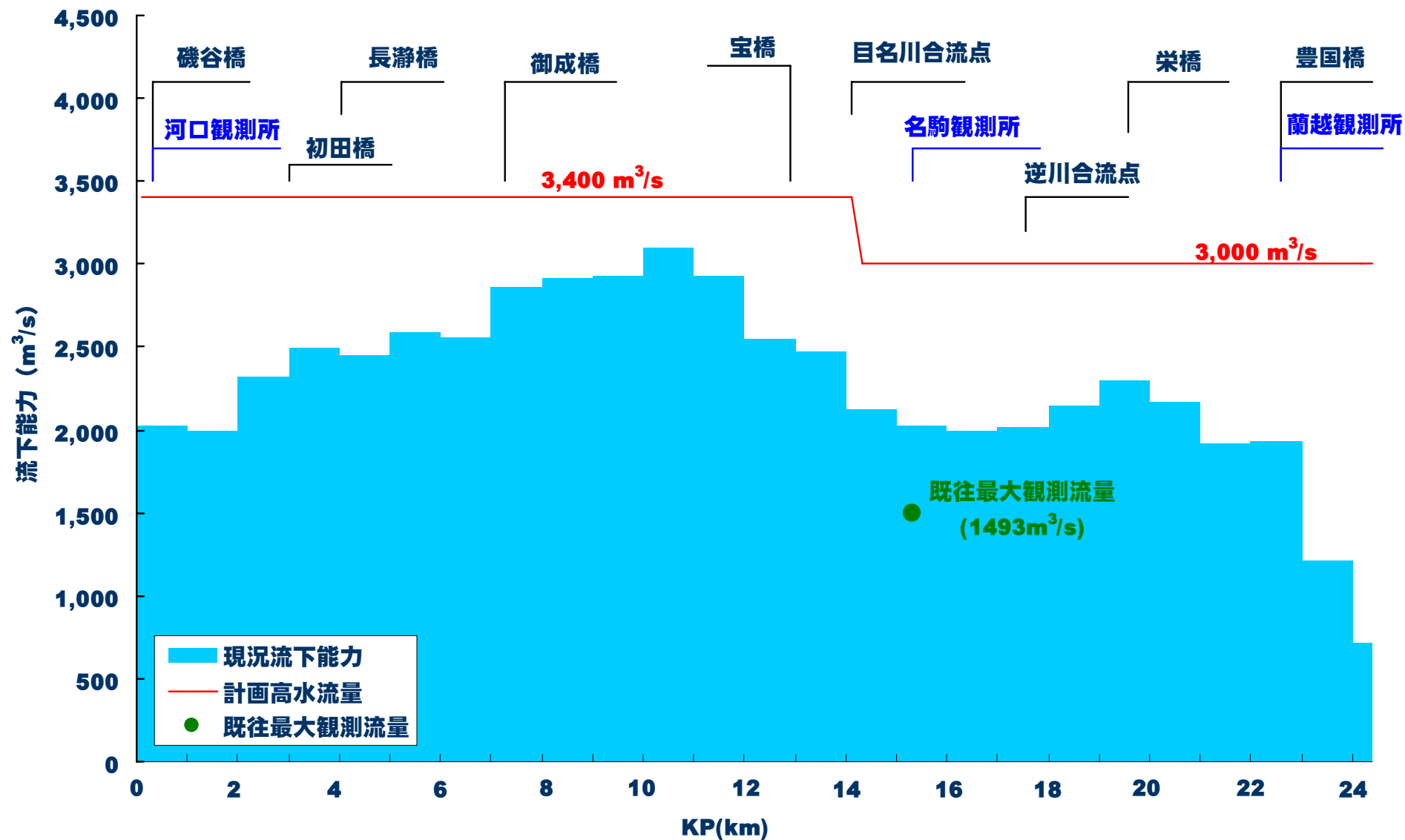
名駒資材備蓄基地



蘭越水防拠点（川の情報館）

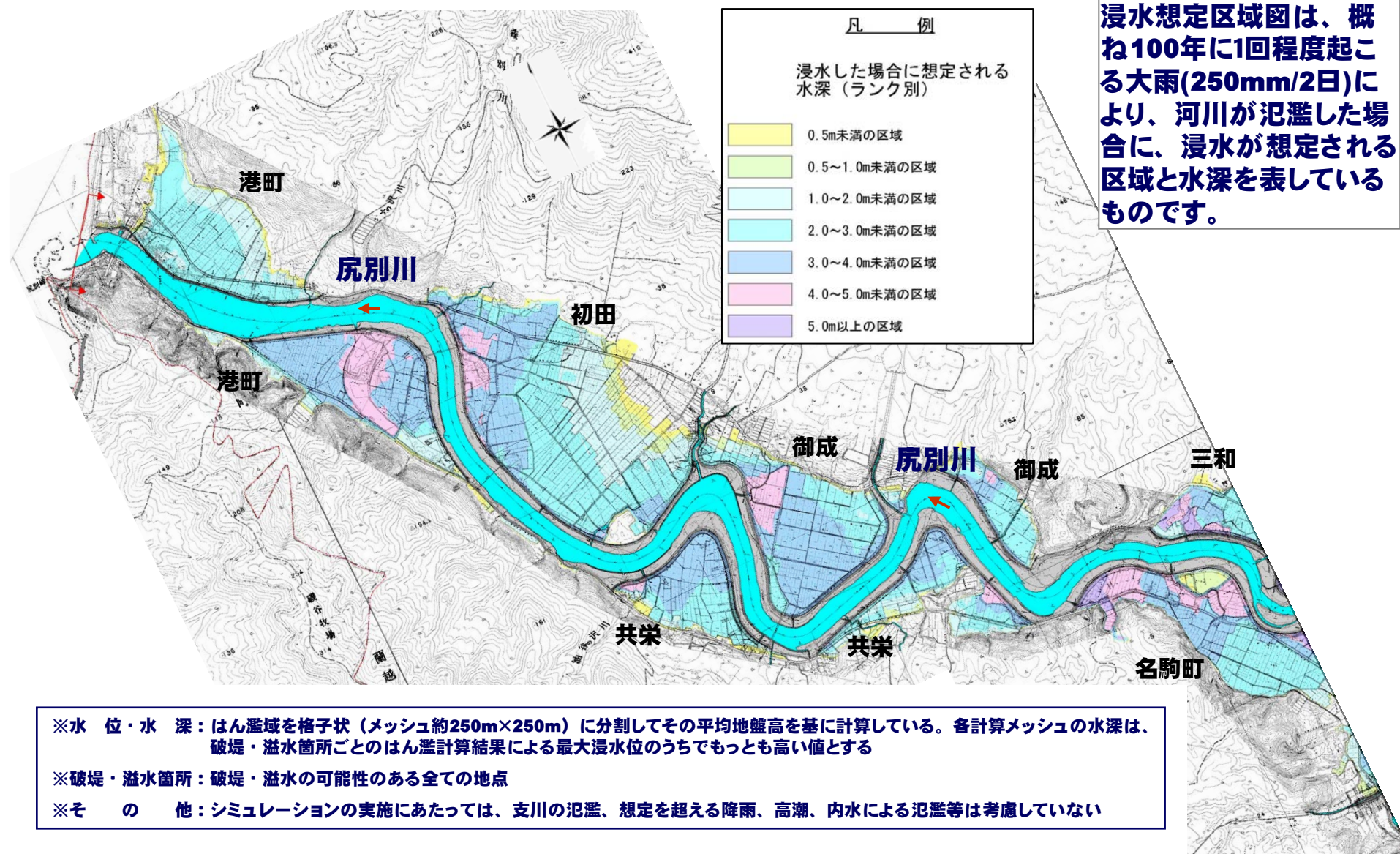


尻別川の現況流下能力図



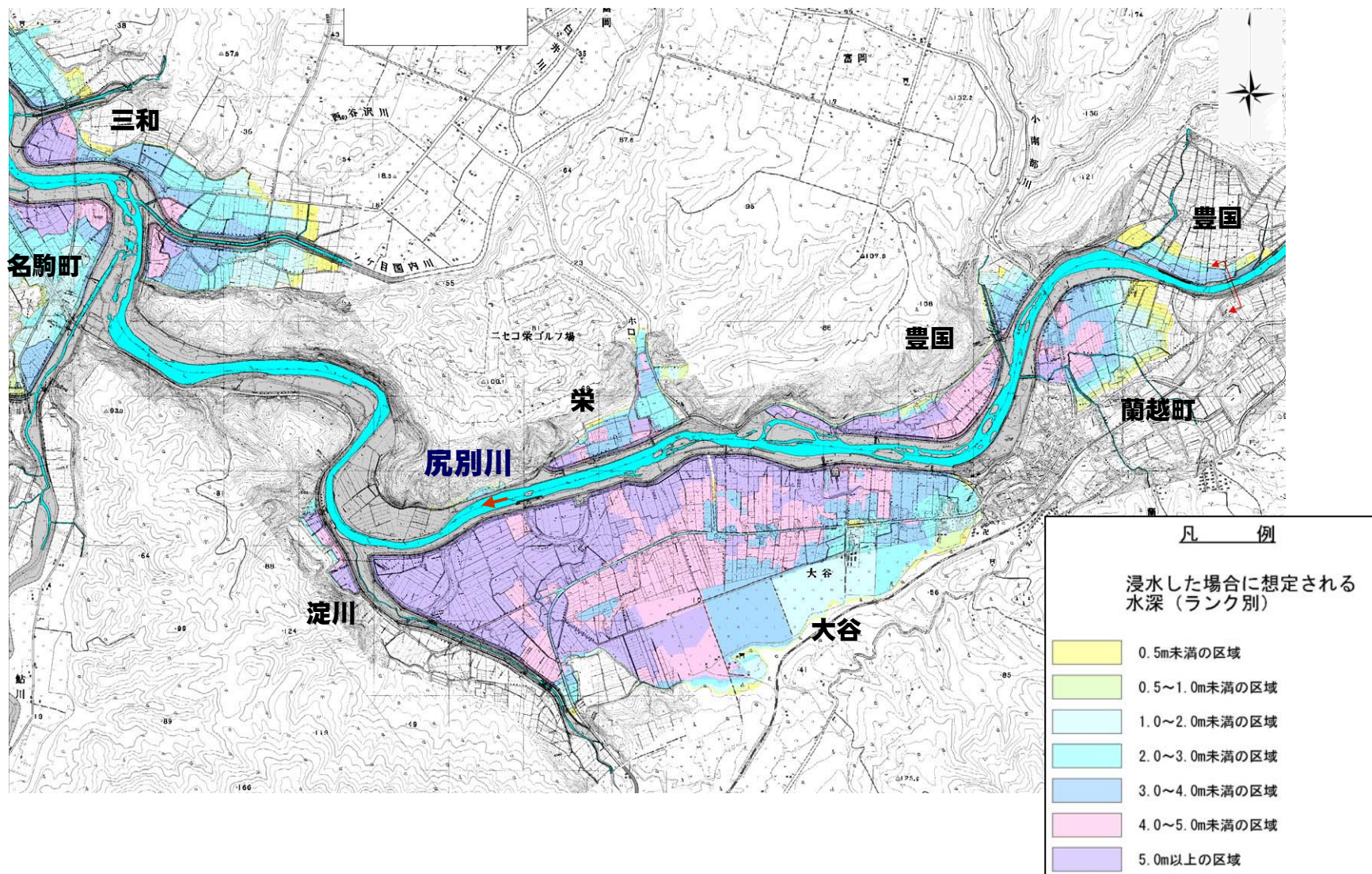
尻別川 浸水想定区域図①

- ◆ 現在の河道状況(平成13年状態)において、計画規模の洪水(名駒地点で $3,300\text{m}^3/\text{s}$)で尻別川が氾濫した場合に想定される浸水状況。



尻別川 浸水想定区域図②

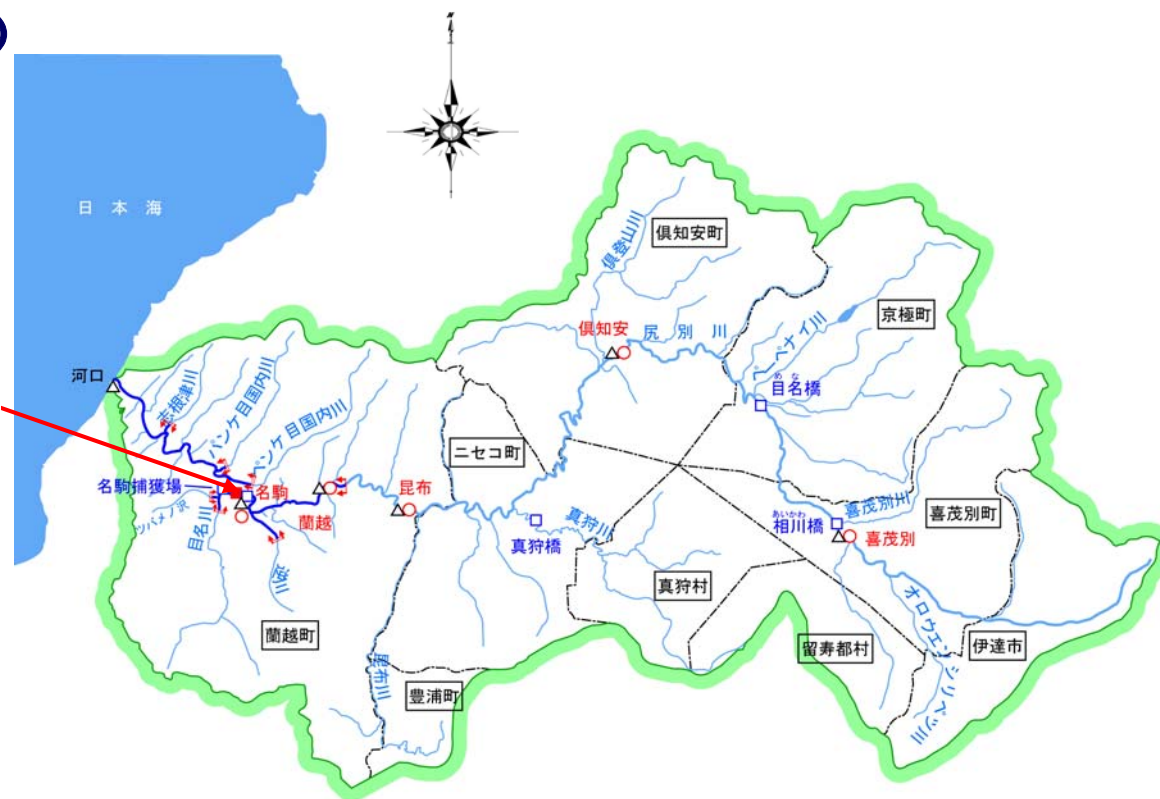
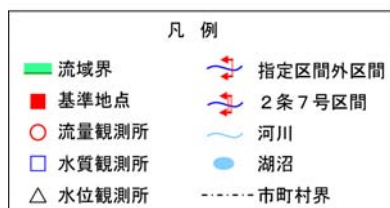
- ◆ 現在の河道状況(平成13年状態)において、計画規模の洪水(名駒地点で $3,300\text{m}^3/\text{s}$)で尻別川が氾濫した場合に想定される浸水状況。



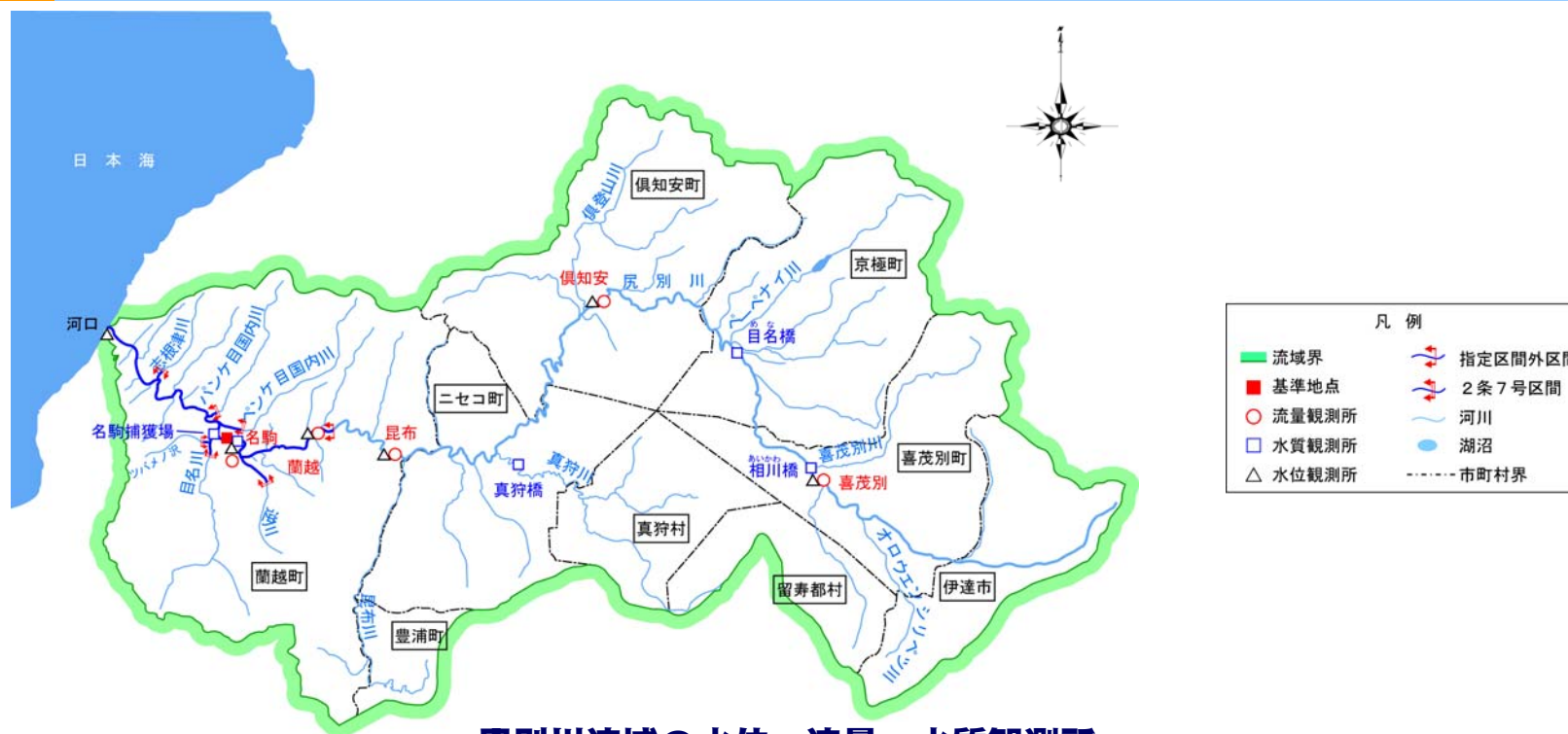
尻別川の流況

- ◆ 尻別川の流況は、4月中旬から5月にかけての融雪期に流量が最も豊富であり、8月から9月にかけて出水により流量が増加するが、降雪期である11月から翌年3月までは流量が少なく変動は小さい。

日平均流量の年変化（名駒地点 平成18年）



尻別川の現在の流況



尻別川流域の水位・流量・水質観測所

尻別川流域の流況（名駒）（単位：m³/s）

地点	集水面積 (km ²)	豊水 流量	平水 流量	低水 流量	渇水 流量	1/10渇水 流量
名駒	1,402.2	63.65 (4.54)	40.49 (2.89)	30.71 (2.19)	23.95 (1.71)	20.74 (1.48)

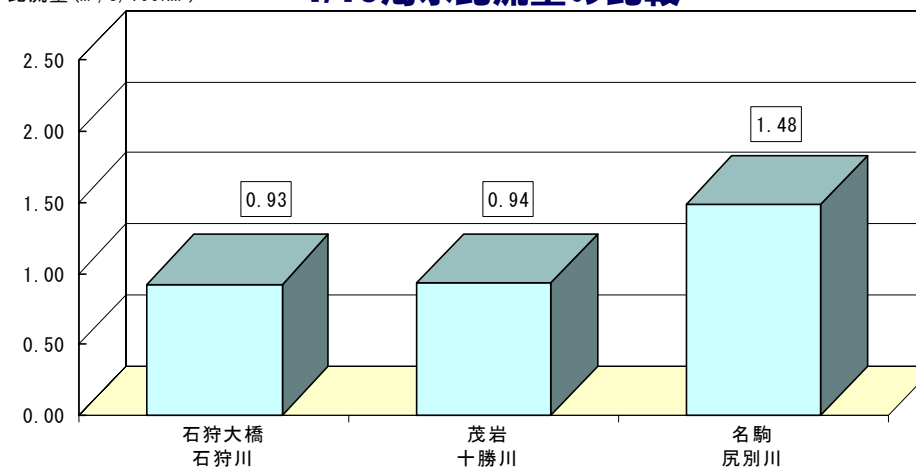
※豊・平・低・渇水流量は観測期間における平均値

※1/10渇水流量とは、既往の水文資料から抽出した10力年の第1位相当の渇水流量であって、20年間の場合は下から2位、または10年間の場合は最小のもの

※比流量とは、流域面積100km²あたりの流量

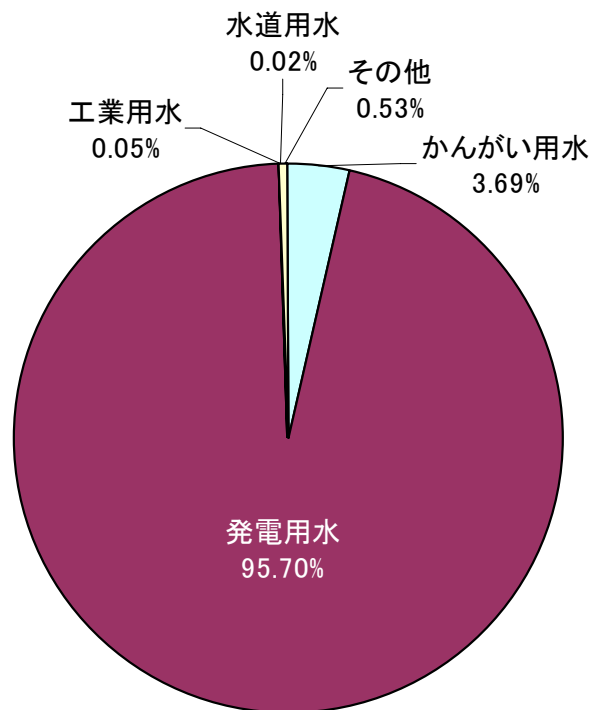
比流量 (m³/s/100km²)

1/10渇水比流量の比較



尻別川の利水の現状

- ◆ 尻別川流域の利水は、かんがい用水、発電用水、工業用水、水道用水等多岐にわたっている。
- ◆ かんがい用水は、開拓農民による利用に始まり、現在は、約6,050haに及ぶ農地に利用されている。
- ◆ 発電用水としては、現在6ヶ所の発電所により総最大出力約40,900kwの発電が行われているほか、京極発電所が建設中である。



尻別川の水利権の状況

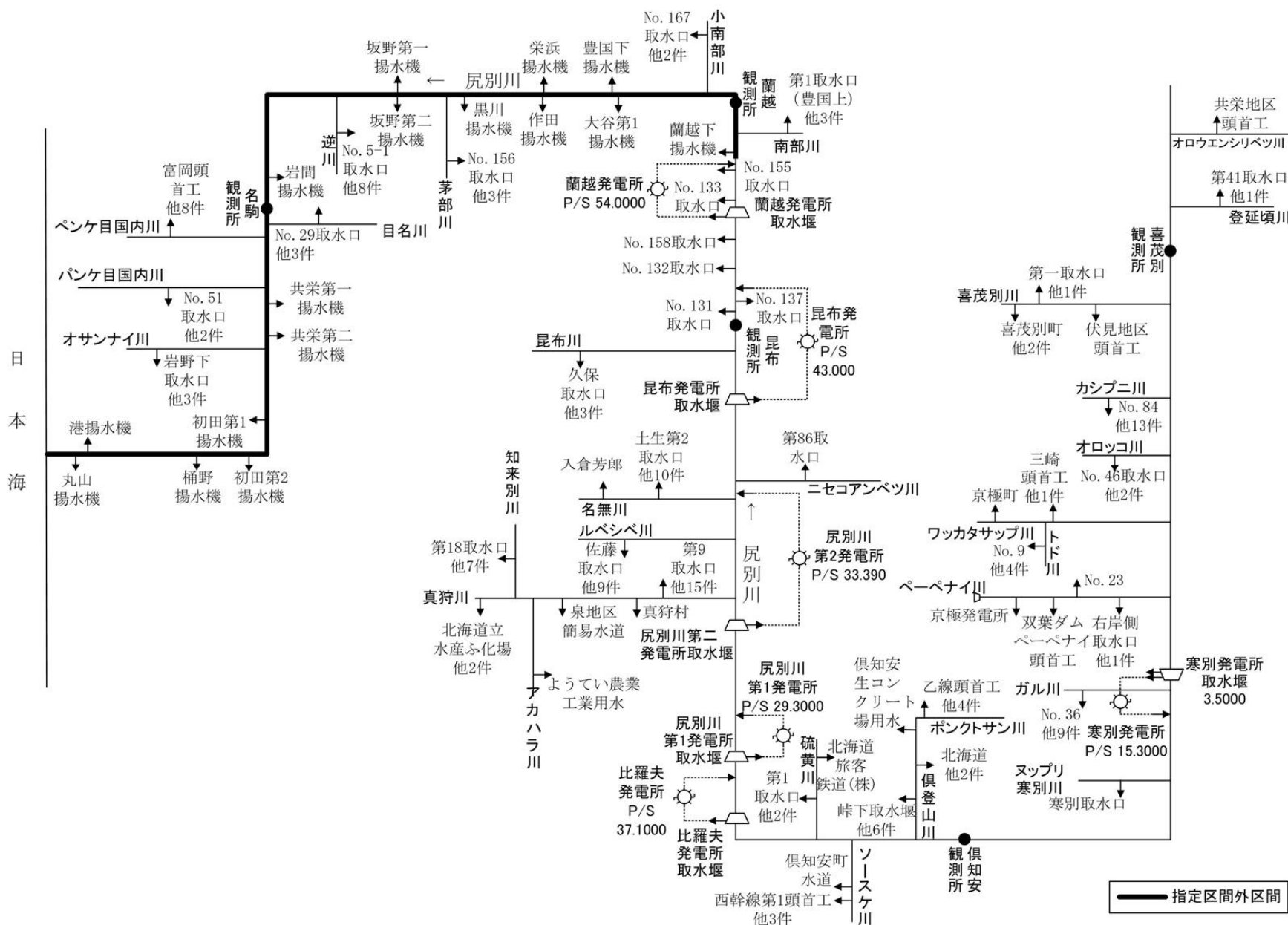
尻別川水系の既得水利権

種別	件数	取水量 (m ³ /s)
かんがい用水	174	15.56
発電用水	7	402.59
工業用水	5	0.23
水道用水	3	0.09
その他	13	2.20
合 計	202	420.67

(平成20年3月現在)

※数値は水利権の最大取水量による。

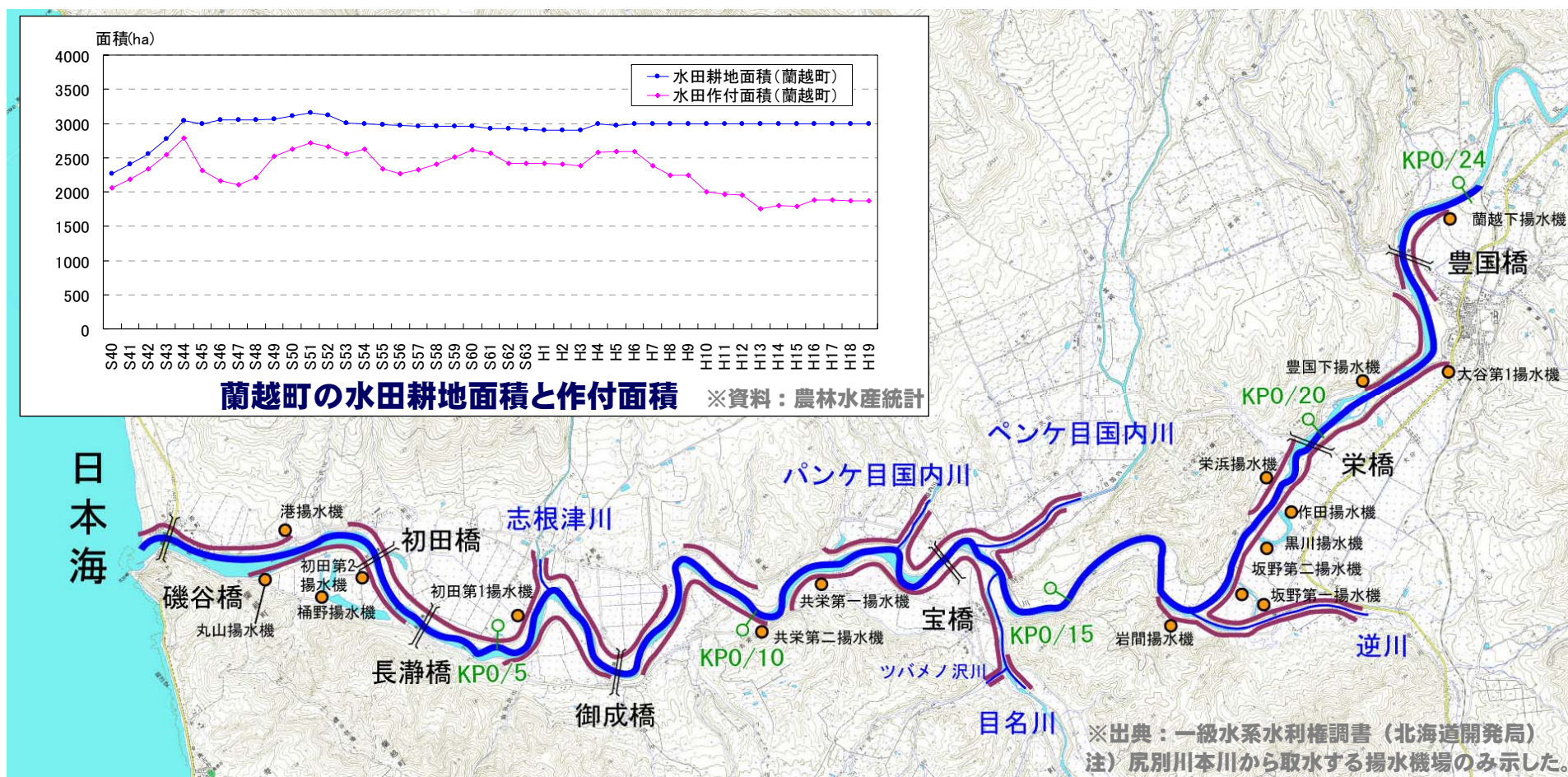
※出典：一級水系水利権調書（北海道開発局）



屍別川水利模式図

尻別川の利水の現状

- ◆ 指定区間外区間では、本川沿いの揚水機場から約420haの農地を対象にかんがい用水として利用されている。
- ◆ 昭和45年から水田の生産調整が始まり、作付面積が減少したが、近年の作付面積は耕地面積の約6割で安定している。清流尻別川の水と、生産者の優れた技術により生まれた「らんこし米」が高品質米として評価が高い。



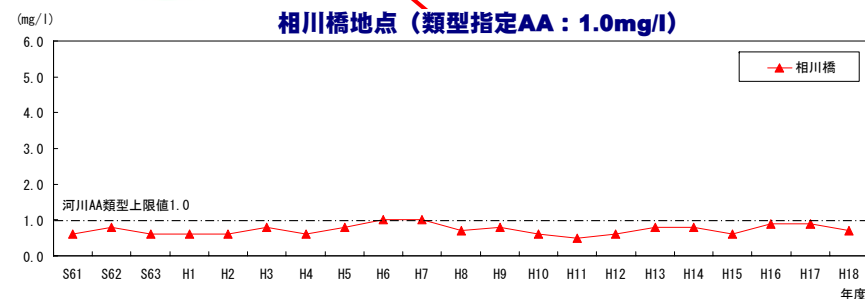
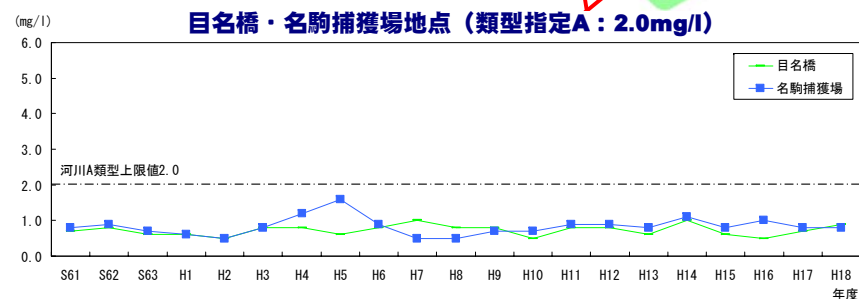
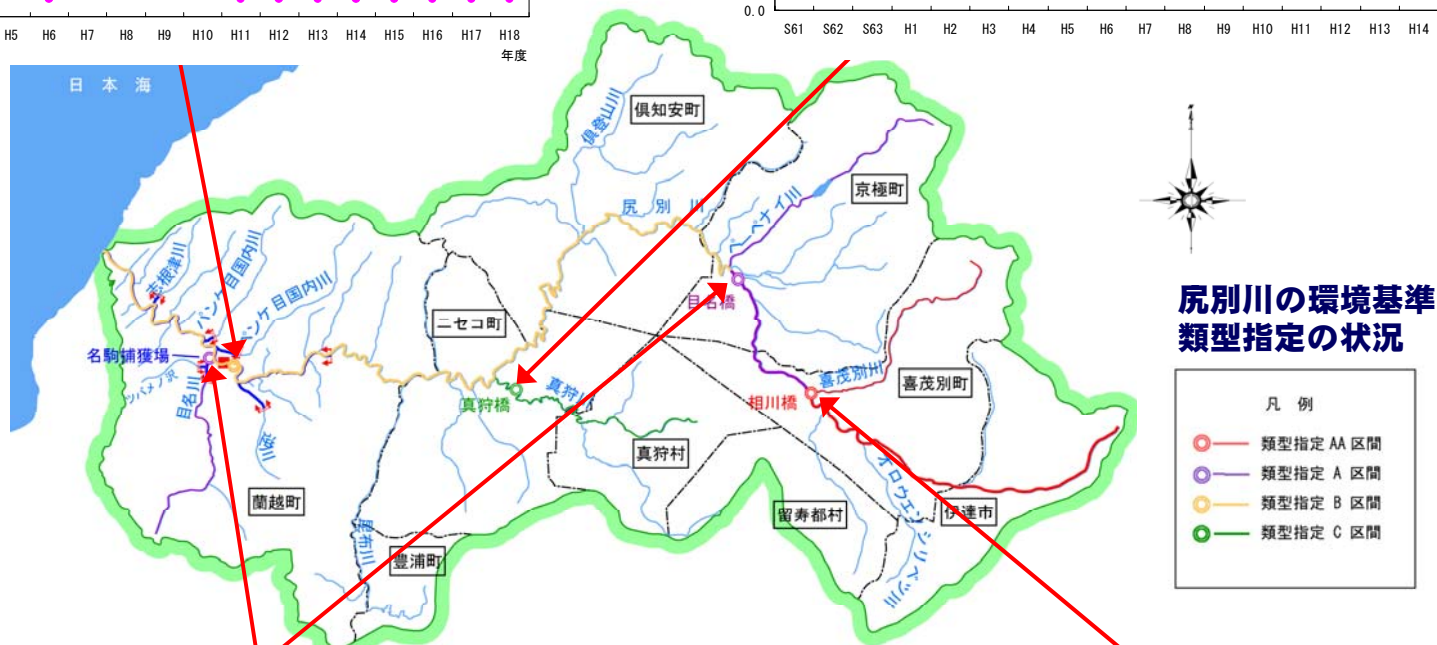
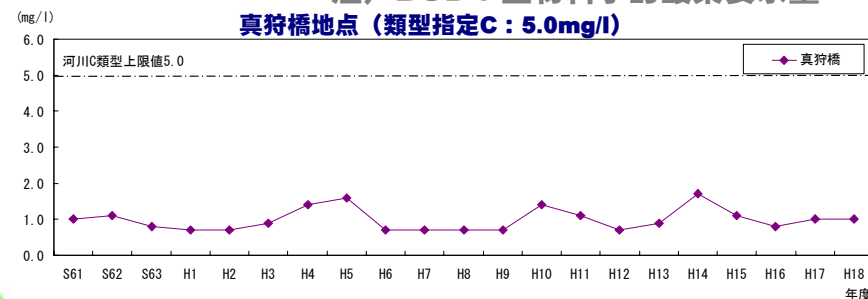
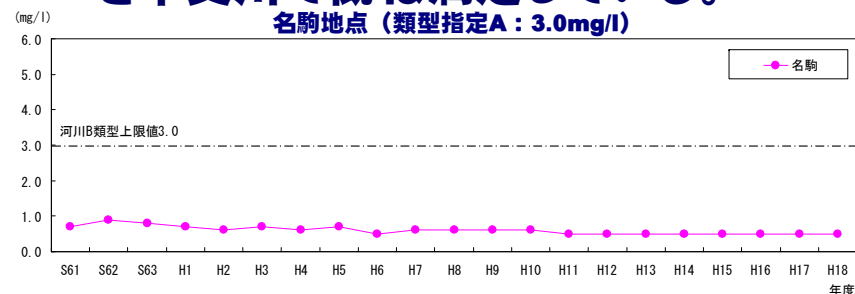
尻別川揚水機場位置図

-
- 寒別発電所取水堰
(発電：北海道電力) 大正13年

尻別川の現況水質（BOD）

◆ **水質レベル（BOD^注75%値）は水質観測地点において、指定されている環境基準値を本支川で概ね満足している。**

注）BOD：生物科学的酸素要求量



◆ 尻別川は、国土交通省が毎年公表している一級河川の平均水質ランキング^{注)}（BOD値）において、平成11～19年のうち平成15年を除く8回清流日本一となっており、日本有数の清流河川といえる。

近年10ヵ年間の全国一級河川の水質ベスト5

平成10年		平成11年		平成12年		平成13年		平成14年		平成15年		平成16年		平成17年		平成18年		平成19年	
順位	河川名	順位	河川名	順位	河川名	順位	河川名	順位	河川名	順位	河川名	順位	河川名	順位	河川名	順位	河川名	順位	河川名
1	黒部川	1	尻別川	1	尻別川	1	尻別川	1	尻別川	1	後志利別川	1	尻別川	1	尻別川	1	尻別川	1	尻別川
	安部川		札内川		後志利別川	2	宮川		後志利別川		荒川 ^{注2)}		沙流川		後志利別川		後志利別川		沙流川
3	鵒川		姫川		姫川	3	雨竜川		札内川		豊川		荒川 ^{注1)}		鵒川		鵒川		荒川 ^{注1)}
	札内川	4	仁淀川		宮川		空知川		宮川		宮川		荒川 ^{注2)}		沙流川		黒部川		黒部川
	鮭川		本庄川	5	北川		後志利別川	5	大野川		大野川		宮川		札内川		安倍川		宮川
	姫川						札内川						荒川 ^{注2)}		荒川 ^{注2)}		宮川		高津川
	大井川						黒部川										高津川		川辺川
	豊川						荒川 ^{注2)}												
	北川						北川												

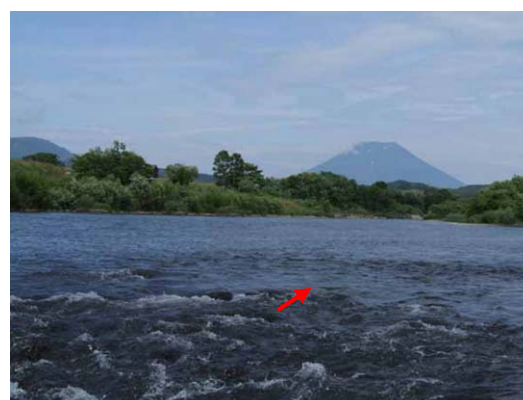
注) 以下の条件を満たす166河川（平成18年時点）を対象として、年間の平均水質によるランキングが公表されている。

・一級河川本川：直轄管理区間に調査地点が2地点以上ある河川

・一級河川支川：直轄管理区間延長が概ね10km以上、かつ直轄管理区間に調査地点が2地点以上ある河川

なお、湖沼類型指定、海域類型指定の調査地点は含まない。また、ダム貯水池は原則として調査地点に含まない。

注1)阿武隈川水系(福島) 注2)荒川水系(新潟)



動植物の生息・生育状況①

【尻別川上流部（喜茂別付近～源流部）】

- ◆ 植生は、高山山頂や溪谷斜面でよく発達するササダケカンバ群落やエゾイタヤーシナノキ群落が分布している。
- ◆ 鳥類は、国の天然記念物に指定されているオオワシなどの広い行動圏を必要とする種が確認されている。
- ◆ 魚類は、冷水環境を好むフクドジョウ、サクラマス、ハナカジカなどが確認されている。



尻別川上流部の植生



フクドジョウ



オジロワシ



動植物の生息・生育状況②

【尻別川中流部（蘭越付近～喜茂別付近）】

- ◆ 植生は、ハルニレーヤチダモ林やケヤマハンノキ林などの自然林が分布している。河畔にはヤナギ類が発達している。清流河川にみられるバイカモやミクリなどの貴重な植物が生育している。
- ◆ 鳥類は、採餌場として河川を利用しているヤマセミなどのほかに、オオタカなどの猛禽類が確認されている。
- ◆ 魚類は、カワヤツメ、アユ、イトウ、サクラマス、ハナカジカなどが確認されている。



尻別川中流部の植生



イトウ



サクラマス



動植物の生息・生育状況③

【尻別川下流部（河口～蘭越付近）】

- ◆ 河畔には、オノエヤナギ群落やクサヨシ等が広がっており、後志が北限とされているトチノキがみられる。
- ◆ 鳥類は、静水域でカモ類が利用しているほか、草原性のオオジシギや森林性のオジロワシもみられる。
- ◆ 魚類は、カワヤツメ、アユ、イトウ等のほか、河口部で汽水性のボラやメナダ等が確認されている。



-
- 虎別川河口部



河川空間の利用

◆ 憩いの場やレクリエーションの場、環境学習の場等として地域住民に広く利用されている。



カヌー体験



ラフティング体験



ランラン公園（親水路）



ランラン公園（パークゴルフ場）



アユ釣り

◆ 川の自然観察会



尻別川の水辺に生息する生物を観察し、河川水質や生物の生息状況などを把握することで尻別川の自然の豊かさに触れ、尻別川に対する親しみを感じ、河川の水質などへの関心を高めてもらうことを目的として実施している。

◆ 尻別川クリーン作戦



尊い河川空間と貴重な環境を保全してゆくために住民の参加を得ながらゴミ拾いなどの美化活動や啓発活動を行っている。

◆ 川の初級指導者養成講座



講義

川での活動を通して、総合的な学習や青少年育成を行うための基礎的知識を学び、地域の自然体験のリーダーとして、安全を確保しながら活躍できる人材を養成する「川の初級指導者養成講座」等がNPOにより行われている。



現地実習

◆ 町村の河川環境の保全に関する条例（尻別川統一条例）

河川環境の保全及び河川の健全利用について、尻別川流域7町村では、尻別川流域の環境保全のための理念や、自治体・住民・事業者及び河川を利用する者の責務を明記するとともに、努力義務を規定した「河川環境の保全に関する条例」をH18に制定している。

◆ 雪中植林



雪中樹林とは、再生紙ダンボール型枠を使い、置き植え方式（穴を掘らない方式）で実施する植樹である。次世代に継承する河川環境の保全への取組の一環として、雪中植林によるみどりの創出を地域の方々と共に推進している。

◆ フットパス



フットパスとは、「自然の中の歩行者用の小径(こみち)」を意味し、森の中や川沿いなどを通る道をつなぐことで、人や地域を繋いでいく道である。地元自治体とNPOが協働して地域住民の参加によるルートを選定や意見交換を行いながら、道の途中にある歴史、文化、自然など地域の魅力を活用し、更なる流域発展に向けた地域協働を行っている。

- ◆ 豊国橋付近より上流では、安全に流下するための河道断面が著しく不足している区間がある。
- ◆ 堤防については、長い歴史の中で量的整備を進めてきたため、内部構造が複雑かつ不均質であることから、浸透や侵食に対する詳細点検を行うとともに、必要に応じて質的整備による安全性の確保を図る必要がある。
- ◆ 北海道でも有数の蛇行河川である尻別川は、河岸が堤防に近接している箇所では洪水による河岸侵食・洗掘により堤防の安全性が損なわれるおそれがある。そのため、監視、調査を継続的に実施し、その結果を踏まえ対策を行う必要がある。
- ◆ アユ、イトウ、サケ、サクラマス等が遡上・産卵し、また、河畔林が連続するなど豊かな自然環境を有していることから、これら良好な環境に配慮しながら治水対策を実施していく必要がある。

- ◆ 豊国橋付近より下流の低平地では内水被害が生じやすいため、効率的な内水排除のための対策が必要である。
- ◆ 河川管理施設に関しては、効率的・効果的な点検・整備及び更新を行い、最大限の機能を発揮させる必要がある。
- ◆ 計画規模を上回る洪水が発生した場合には、その被害軽減のために危機管理上の対策についても充実を図る必要がある。
- ◆ 地震津波対策については、河川構造物の耐震性能の確保に努め、防災等関係機関と連携を図りながら、情報伝達体制等について調査検討を行い、必要な対策を実施していく必要がある。
- ◆ 河口に関しては、流下断面の確保について調査検討を進め、必要な対策を実施する必要がある。

- ◆ 尻別川は、多様な動植物の生息・生育・繁殖する豊かな自然環境・河川景観を有する。特に、アユとイトウが共に生息することから、多様性のある水際の保全・形成や流域を含めた自然環境の保全・再生が必要である。
- ◆ 河道内の樹木に関しては、多様な機能を有しているが、洪水時には水位の上昇や流木の発生原因となることから、環境に配慮しつつ適切に管理していく必要がある。
- ◆ 外来種の侵入の防止に努める必要がある。
- ◆ 水質は、環境基準BOD75%値を概ね満足し、平成11年から19年の9年間で8回清流日本一に輝いているが、今後も自治体と連携しながら継続的に監視していく必要がある。

- ◆ 高水敷は、公園やグラウンド、パークゴルフ場といったレクリエーションの場として利用されている。
- ◆ 尻別川は河川景観を形成する重要な要素であることから、地域の総合的景観形成を図る上で、尻別川らしい河川景観の保全と形成に努める必要がある。
- ◆ 流域7町村では、尻別川流域の環境保全のための理念や、自治体・住民・事業者の責務を示した「町村の河川環境の保全に関する条例（通称「尻別川統一条例」）」を制定している。
- ◆ 河川整備にあたっては、河川空間の利用に関する多様なニーズを十分に反映し、河川愛護活動や環境教育などの取り組みを地域と連携して進めていく必要がある。

1.河川整備計画の目標に関する事項

1-1 流域及び河川の概要

1-2 河川整備の現状と課題

1-2-1 治水の現状と課題

1-2-2 河川の適正な利用及び河川環境の現状と課題

1-3 河川整備計画の目標

1-3-1 河川整備の基本理念

1-3-2 河川整備計画の対象区間

1-3-3 河川整備計画の対象期間等

1-3-4 洪水等による災害の発生の防止または軽減に関する目標

1-3-5 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する目標

1-3-6 河川環境の整備と保全に関する目標

2.河川整備の実施に関する事項

2-1 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに

当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要

2-1-1 洪水等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項

2-1-2 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項

2-1-3 河川環境の整備と保全に関する事項

2-2 河川の維持の目的、種類及び施行の場所

2-2-1 洪水等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項

2-2-2 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持並びに河川 環境の整備と保全に関する事項